

第6回 中央区自治協議会 会議録

開催日時	令和7年2月21日（金） 午後2時00分から午後5時30分まで
会 場	中央区役所 5階 対策室
出席者	委 員 渡辺（雅）委員、玉木委員、豊島委員、米倉委員、上之山委員、唐沢委員、伊藤委員、野澤委員、樋口委員、山岸委員、鈴木委員、長谷川委員、井上委員、吉岡委員、小林（栄）委員、渡邊（俊）委員、小林（寿）委員、田中委員、渡部委員、佐藤委員、八木委員、高橋委員、土田委員、森本委員、松川委員、桐生委員、若木委員、北川委員 出席 28 名 欠席 4 名 （高田委員、寺井委員、高見委員、小奈委員） 事務局・説明者 〔新潟市〕 商業振興課長 〔新潟市教育委員会〕 教育支援センター所長、中央図書館長 〔中央区役所〕 区長、副区長、窓口サービス課長、健康福祉課長、保護課長、建設課長、東出張所長、南出張所長、地域課長、地域課長補佐
議 事	1 開会 ○ 会議の成立について 委員 32 名中 28 名出席のため、規定により会議は成立 （議 長） 皆さんこんにちは。次第をご覧ください。今日はまず、メインイベントの部会活動報告があります。それが終わりましたら、議事、「中央区自治協議会第10期委員改選について」来期の委員のお話があります。それが終わりましたら報告、やすらぎ堤の報告とか公共交通の報告があります。さらに、令和7年度の特徴ある区づくり予算、西堀ローサの地下駐車場の話もあります。そして、5番目に、二つ目のメインイベント、北川委員提案の古町や本町についての討議事項があります。そして、区役所からのお知らせがあって終わりとなります。 2 部会活動報告（議長＝佐藤会長）

(議 長)

それでは早速、部会活動報告に入ろうと思います。今回の部会活動報告は、第1部会から第4部会、そして、だより編集部会まで、すべての部会が代表者の方に前に出ていただいて、パワーポイントを使って説明していただきます。そして、2年間やったことの集大成を皆さんにお披露目するというような形になっております。各部会とも発表は15分くらいで、終わったら5分間、質疑応答を取ります。よろしくお願いします。

まず、第1部会、松川委員、土田委員、よろしくお願いします。

①第1部会 (資料 報1-1)

(松川委員)

第1部会の松川です。

(土田委員)

土田です。

(松川委員)

よろしくお願いします。

では、第1部会の活動報告を行いたいと思います。タイトルは、「にいがた推しメシプロジェクトin古町・本町」ということになっております。内容について、これから説明させていただきます。

まず、このプロジェクトに至るまでの議論の経過をご報告いたします。一昨年4月、各委員の自己紹介が終わったあと、どのテーマ、どの地域を取り上げるかということで、みんなで議論を行いました。しも町に光を当ててほしい、あるいは女池を盛り上げてほしい、あるいは駅南がこれから盛り上がるのではないかと、いろいろな話がありましたけれども、新潟市のメインの政策が「にいがた2km」ということで、これにフォーカスし、ここに我々自治協議会の意見を反映させていこうではないかということで、1度はまとまりました。それで、私から新潟市の「にいがた2km」の計画書、けっこうな枚数あるのですが、次の部会までに読んできてねということで、宿題を出しました。そうしたら、次の部会で各委員から、ものすごく量が多くて、細かくて、結局、メリハリがつかない、読み込めないという意見が出て、1回引っ込みました。2年前というと、ちょうどこれから駅が高架化してバスが南北を通過するというので、駅が賑わうことは分かっているので、では、その賑わいをどうやってこの古町地区に持ってくるかということで、エリアは古町地区に決定しました。

続いての議論が、何をもって賑わいを創出するかという、コンテンツは何を使うかと

ということで議論が行われた結果、「食」を活用した古町地域の活性化に決定いたしました。それで、令和5年12月、実際はどういう状況か、課題は何かということで、古町と本町を委員全員と事務局の併せて11人でまち歩きをしました。12月だったので日の暮れも早いのですけれども、予定時間の1.5倍くらいかかりましたが、いろいろな発見がありました。ルフルから始まって、古町演芸場というのもなかなか人気だそうで、さらに浦安橋遺構というものを知らない委員が、私を含めてほとんどでした。鮭の干してある下の真ん中の写真、これも昔は何店もあったらしいのですが、今は1店舗だけということで、なかなかもったいないなと思っています。それで、右側の写真、鍋茶屋通りです。昨日だか一昨日の新聞にもありましたが、景観地区に指定されるということで、食と景観というのもなかなか面白いコンテンツじゃないかなということで、まち歩きを行いました。

それで、なぜ「にいがた推しメシプロジェクトin古町・本町」ということになったかというと、食を生かして、何をもって人を招き寄せるのだということで、いろいろな議論を行いまして、最初、参加店舗を募集し、新潟の食材を使ったメニューを考案していただき、形式も一汁三菜の定食方式にすると決定しました。あまり広げすぎるとテーマがぼやけるということで、ある程度絞ったテーマを設けて、定食方式で新潟の食材を生かすことで、古町らしさが目立つようになるのではないかとということで、こういうテーマにしました。しかし、ここでまた議論がいろいろ変わります。新潟中心商店街協同組合の理事をアドバイザーとして部会に招いて、事業内容について、こういうことをしたいのですと申し上げたところ、それは参加のハードルが高すぎて、参加店舗が見込めませんよというアドバイスをいただきまして、内容を変更し、各店舗で提供しているそのお店の看板メニュー、一推し商品の情報を発信して集客と賑わいの創出に努めることに決定いたしました。

要点としては、一過性のイベントをやって終了ではなく、将来的に効果が続く企画にしたいということで、どういう発信方法にしようか議論を行いました。それと、先ほどアドバイスいただいた新潟中心商店街協同組合から、古町だけでなく本町も食の中心にあるという意識があるから、タイトルに本町を入れたほうがいいですよということで、古町・本町ということになっております。

では、続いて、土田委員から申し上げます。

(土田委員)

このプロジェクトを宣伝していく中で、紙ベースではなく、Instagramを立ち上げることにしました。まずは紙ベースで考えていたのですが、高齢者など多くの方々が目にすることができるという紙ベースのメリットもありますが、デメリットとして費用がかかることや、更新が難しいことなども多く上げられました。そこで、Instagramのアカウントを立ち上げることで費用の負担がないことや、全国や全世界に情報を届けられること、また、更新がしやすいことなど、さまざまなメリットが上げられたので、

初めてインスタグラムを使用する方も多くいましたが、インスタグラムでやっていくというように方向転換して行っていました。

(松川委員)

続いて、この推しメシプロジェクトの要点について申し上げます。まず、インスタグラムに専用のアカウントを立ち上げること。範囲は古町・本町及びその周辺地域です。西堀なども一部入っております。それから、各店舗の自薦により申し込まれた看板メニューをPRすること。各お店からの申し込み情報を基に、ユーザーの興味を引きつけ、推しメシプロジェクトとほかのグルメ系アカウントとの差別化を図るため、写真を装飾加工してインスタグラムに投稿することにいたしました。さらに、これは市役所の国際課にご尽力いただいて、英訳もつけて、インバウンド需要にも対応する、外国人もぱっと見てすぐ分かるような内容にしました。それで、メニューに縛りは設けない、「推しメシ」というタイトルですが、スイーツやドリンクなどもオーケーにしています。最初を対象店舗を店内で飲食できるお店としたのは、来て味わっていただきたいという趣旨があったのでこういった条件にしたのですが、9月に条件を緩和しようということになりまして、テイクアウト専門店も参加を可能としております。お店を募集するに当たっては、各お店へ直接訪問したほか、商店街組合など関係団体にも私どもと事務局とで訪問して協力をお願いしました。参加店にはグッズ、これはお店に貼れるステッカー、インスタグラムにつながる二次元コードがついているものです。それと、ポケットティッシュを用意して参加店に配布させていただいております。それから、これも区役所の皆さんにご尽力いただいたのですが、区だよりとか新聞、地域情報サイトにも記事を載せてPRしております。

それで、参加店を募るために、各委員が直接お店を訪問しました。その店舗数がなんと160店舗。7月から冬間近まで、皆さんが一生懸命お店を訪問して、心を込めて説明していただきました。皆さん、ありがとうございました。グッズはこのような感じでやっております。それで、安兵衛さんなのですけども、右の写真、こちら、登録していただいたお店にグッズをお渡しした写真です。

(土田委員)

実際に古町・本町地区を回った感想としては、チェーン店が少なく個人営業の個性的なお店が多いことで、食の種類も多種多様で、そこについては期待がありました。また、人通りは少ないですが、お店に入ってみると賑わいがありました。また、コロナ禍で閉店した空き店舗の活用で新規の出店も多くありました。

不安としては、実際に委員たちで声をかけに行ったのは160店舗だったのですが、お店側の熱意が感じられないこともありました。店主が高齢であったり、実際に今、継続して来てくださっているお客さんを大切にしたいという理由で、なかなか積極的にインスタグラムでPRしようという意見がないこともありました。また、若い人が入りやす

そうなお店が少ないことであったり、古町は敷居が高いという偏見があることも分かりました。このインスタグラムで実際にメニューであったり店内や外装の写真を投稿することで、若者が来店するきっかけになるのではないかと考えております。

(松川委員)

ということで、160 店舗を訪問し、25 店舗の参加をいただいて、現在、フォロワーも 450 人を超えています。これは事務局に市の公式 SNS に上げていただいたことで多く知っていただくことができたので、本当にありがたいなと思っています。効果としては、日常的に SNS を活用している若い世代に古町・本町の食の魅力を発信することができたかなと思っています。お店自身がインスタグラムで発信しているところも多いので、そこの相互フォロー、あるいは投稿をシェアするようなことで新たなつながりが生まれたとともに、より多くのユーザーに情報を発信することができて、フォロワーが現在 454 人ですね、増えています。

それで、私も実際にそうだったのですけれども、お店があるのは分かっている、どのような料理が食べられるのか、どのような値段で食べられるのかというのが、実際によく分からない部分があったのですけれども、一押し看板メニューをきちんと写真つきで出すことで、心理的な壁を取り払って敷居を下げる効果があったかなと思っています。参加店は 25 店舗まで増えまして、フォロワーも増えていますので、これを継続してやっていくことで、さらなる効果を期待できるかなと思っています。参加店舗 25 店舗、フォロワー数が昨日時点で 454 人です。

ただし、課題もあります。店主が高齢だと、やはり、なかなか参加していただくことが難しい部分がありました。SNS だと競争が激しくて、実際に見ていても、最初は写真だったのが、今フォロワーが多いのはほとんど動画を作り込んでいるプロみたいな人が多いので、その勝負ということで、なかなか厳しい、レッドオーシャンという言い方もありますけれども、そういったところに飛び込んだなという意識はありました。

本当は、当初、8 月末までに 100 店舗という目標を立てていたのですけれども、実際は、終わってみて 25 店舗ということで、なかなか一人一人を説得するということは、無料で宣伝できますよと一生懸命言ったのですけれども、それでもいろいろな障壁があるので、申し込みをもっと簡単にできるようにしたり、電子申請に慣れていない店舗には入力をフォロー、委員が直接行って一緒になって入力を手伝うようなこともできれば、申し込みのハードルを下げることもできたかなと考えています。さらに言えば、先ほども申し上げましたけれども、プロみたいな動画作成者がたくさんおりますので、こちらも専門業者と連携して、画像だけではなくショート動画等も制作することで、より多くのユーザーを引きつけることができたのではないかと反省もあります。

それで、大事なのが 5 番目で、お店に対して一生懸命プッシュしてきましたけれども、実際にお店に訪れて食事されるお客様に対しての働きかけが足りなかったかなという反省もあります。ここに対しては、ほかのインスタグラマー等を活用した情報発信も

効果的ではないかと、部会で議論がありました。

(土田委員)

このプロジェクトをさらによくしていくための提案としては、事業を発展させていけるとよいと考えております。第10期の方々に引き継いでいただいたり、また、民間の方々のノウハウを使うことで、より発展させていけるのではないかと考えております。また、インスタグラムの活用を、今まで以上に動画の投稿などを増やして、より見てもらえるアカウントにすること。また、お店に来店した人たちが料理を撮影して、ハッシュタグ「#にいがた推しメシ」をつけて投稿していただけるような仕組みを考えること。また、デジタルマップへ誘導することで、より訪問しやすい環境を作ることなどが上げられました。ほかには、広報媒体を活用してPRをより強化することであったり、商店街組合の協力を得て組合員を集めて説明会を実施すること。また、「食」に古町芸妓であったりアニメといったコンテンツを組み合わせ、より古町の広い魅力を宣伝することもできるかなというように考えております。

(松川委員)

委員の皆さんの奮闘と、事務局に本当に助けていただきました。改めて部会長としてお礼を申し上げたいと思います。上之山委員、鈴木委員、そして今、群馬で頑張っておられるであろう田中委員、それから土田委員、それから野澤委員、長谷川委員、樋口委員、若木委員と、本当にこの素晴らしいチームに恵まれて、私、部会長として本当に幸せです。あと、事務局荒井さん、伊藤さん、川崎さんにも大変お世話になりました。本当にありがとうございました。第1部会の発表は以上で終わります。ありがとうございました。

あと、まだフォローしていない方は、このあとすぐフォローしていただくようよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(議長)

ありがとうございました。それでは、今の発表に対して、質問、意見等ございますでしょうか。

では、私から。素晴らしいことをやっておられると思いました。推しメシプロジェクトなのですけれども、これが例えば、テレビや何かに放送されると、それぞれのいろいろな店に皆さん、市民や観光客がどっと押し寄せるのではないかなと思いました。

それと、実際にもうやっているわけなので、そのお店にどれだけのお客さんが増えたり、どれだけの収益が上がってきているのかなどという資料とかはありますか。

(松川委員)

今のところ、ありません。ただ、今も委員が手分けして、登録いただいたお店に行っ

で写真を撮って新たに投稿しています。ページが更新されないとフォロワーが減るので、投稿してフォロワーを増やす努力をしているところでございます。

(議 長)

売り上げが上がったら、お店の人はすごく喜ぶと思いますので、いいことだと思います。

何かありますでしょうか。田中委員、何かないでしょうか。

(田中委員)

今、フォローしました。

先ほど言われた、このエリアにはチェーン店が少なくて個人店が多いというのは皆さん感じていることだと思うのだけれども、それは、チェーン店にとって魅力がない場所なのです。家賃が高くて人が来ないという場所だからです。逆を言うと、個人店の人は、チェーン店が出てこないわけなので、穴場と言えど穴場ということで、そういう意味で、逆転の発想でこのような取組みを通じて新しい店が発見されるというようなことを、これからも期待したいと思います。ご苦労さまでした。

(議 長)

ありがとうございます。そうなのです、古町・本町は個人の店が多い。ということは、新潟らしさを前面に出している地域ということですね。そのようなところのお店、メニュー、素晴らしいと思います。

(森本委員)

フォローさせていただいていたのですが、久しぶりに見ました。

それで、すごく細かい話なのですが、これを見たときに、お店の名前が写真に出ていればいいのですが、店名が出ていないときには、左上に「にいがた押しメシ」の下欄に店名が入ることになっているので、空欄のところもあるから、できればこの空欄になっているお店に名前を入れていただくと、さらによいかと思います。

(土田委員)

インスタグラムと連携しているマップに、実際にお店が反映されていないとお店の名前が入れないことになっていて、入れられるお店は入っているのですが、マップにお店の名前がないところだと名前がつけられないのです。「にいがた押しメシ」と書いてあるところの下のお店の名前を押していただくとマップに飛ぶようになっているのですが、それがないところはつけられないという形になっています。

(議 長)

ありがとうございました。
どうぞ。

(樋口委員)

関屋の樋口です。同じ第1部会で、この推しメシプロジェクトをやらせていただきました。一つだけ、皆さんに知っておいてもらいたいのですけれども、開催概要のところにも書いてあるのですけれども、私は中央区自治協議会委員を長くやっていますけれども、このSNS、インスタグラムを活用しようという今までにないアイデアは、ここにいる土田委員からのアイデアです。要は、新しい人、若い人が入ってきてこの自治協議会を活性化した一番いい例ではないかと思います。我々多分、土田委員がいなかったらインスタグラムという機能を活用しようとは思わなかったのではないのでしょうか。ですからやはり、若い人の意見を尊重してやっていってよかったということが一つ。

それからもう一つは、なかなかフォロワー数が増えなかったものですから、市のLINEの中で広報させていただきました。そうしますと、やはり発信力がありまして、発信前は100件程度だったものが一気に400件までフォロワーが増えたということですから、自治協の活性化のためには、ぜひとも若い方の意見を大いに取り入れてもらって、地域を発展させていただきたいと思います。

(議 長)

ありがとうございます。今回の大成功も土田委員の影響ということなのですね。ありがとうございます。

それでは、そろそろ時間なので、第1部会の皆さん、少しご起立願います。それでは皆さん、今の素晴らしい発表に拍手をお願いします。第1部会の皆さん、どうもありがとうございました。

続きましては、第2部会の発表です。米倉委員、よろしくお願いします。

②第2部会（資料 報1-2）

(米倉委員)

第2部会の米倉です。よろしくお願いします。

第9期自治協議会第2部会の活動を振り返ってみたいと思います。第2部会は、協働、子育て・教育、健康・福祉、防災・防犯、生活環境とカテゴリーが多岐にわたり、非常にテーマを絞るのが難しく、部会で散々検討した結果、防災にスポットを当てて活動していくこととしました。部員の中に防災に関わりのある方が非常に多かったので、今期のテーマは防災に決めました。

それで、部会の様子です。防災とはいうものの、やることはいろいろありまして、何

をするのか。部会で検討に検討を重ね、さまざまな意見が出ました。その結果、防災意識の薄い人にむけて防災啓発のための防災イベントを開催することに決定しました。あくまで防災意識の薄い人への啓発です。そして、開催時期はいつにするか。新潟地震のあった6月、新潟市ではいろいろ防災イベントをやられています。そこに合わせるか。しかし、その時期だと他の防災イベントと重複するので、少し早い5月にするか。いつそ4月にするのとどこもやっていないので、マスコミも取り上げてくれるのではないかなど、いろいろ検討しました。

そして、開催場所ですが、やはりルフル広場、そして、本町通、万代、駅南、食花、大かまと、案外新潟市中央区、やる場所はたくさんあるのだなということで、集客を踏まえて検討しました。そして、内容ですけれども、防災の意識の薄い人なので、まず、地震体験車に乗ってもらって地震を体験してもらう。そして、子どもを呼べるように消防車やパトカーにも来てもらう。そして、避難所体験ですとか、福祉関係で車いす体験、そして、VR、ARでバーチャル体験などはどうかと。あと、クイズラリーで景品などを出して、そうするといろいろ回ってくれるのではないかと。そしてやはり、集客効果があるのは音楽だということで、消防音楽隊を呼ぼうとか、そういうことを考えました。そして、ほかのイベントに乗っかるのはどうだろうと。そうすれば集客効果が上がるのではないかと。本町マルシェや古町どどんに合わせてどどど人を集めるのはどうだろうかというように検討していきました。

時期も押し迫ってきたので、いよいよ具体的に進めなければだめだなという時期に来たのでいろいろ検討したのですが、令和6年1月1日の16時10分に令和6年能登半島地震が発生しました。そこで、皆さん地震を経験してしまいました。新潟市でも津波警報が発令され、海岸部や河川沿岸部には避難指示が出ました。市内は騒然となり、多くの方が避難されました。ここにいらっしゃる方も避難された方が多いと思います。中央区でも、液状化により各所で陥没があり、土砂や水が地面に溢れ、傾いた家もあり、被害は思ったより大きなものになりました。こちらの写真は中央区での液状化による陥没です。右のほう、穴が空いて奥でマンホールが浮き上がっていますけれども、これは私の自宅の前です。市道なので、道路の穴は埋めていただきましたけれども、マンホールは下水道なので助成は出ないということで、地権者がいろいろいるので、まだこういった下水がそのままになっています。

地震を経験したことにより、自然と防災意識は高まったので、防災意識の薄い人に対してのイベントというのも、少し違うかなということで、路線変更することにしました。防災講演会やワークショップなどはどうかと考えましたけれども、まず、そのためには、地震を経験して皆さんが感じたことをアンケートで聞いてみようということになりました。それで、対象をどうするか、項目はどうするか、いろいろ考えましたけれども、ここにいらっしゃるコミ協の皆さんにお願いすれば、コミ協・自治会関係者に配れるのではないかとということで、令和6年2月の自治協議会にて、委員の皆さんにアンケートを持ち帰っていただきまして、ご協力いただきました。皆さん、アンケートのご協力あ

りがとうございました。おかげさまでさまざまな意見があり、課題がいろいろ見えてきました。避難行動や普段からの備え、避難所運営や被害に対する助成など、ソフト面からハード面まで、問題は多岐にわたります。

これを踏まえて、防災講演会と防災ワークショップを開催することとしました。いつどこで開催するかというのいろいろな意見が出ましたが、単独でやるとか何かに合わせるとか、いろいろ検討しました。結局、集客効果を考えまして、時間的にスケジュールが本当に過密になってしまうのですけれども、11月15日、市民プラザで行われる新潟市中央区地域功労者表彰式に合わせて、同日に行うこととしました。中央区地域功労者表彰式のあとに、防災講演会是新潟市防災士の会会長の平井孝志氏を招き、「地震発生初期からの避難所運営について」～1月1日西区で何が起きた！～と題した講演をしていただき、130名の参加がありました。

防災ワークショップでは、「避難所運営のあり方」「地域ごとの災害リスク」「これからの防災訓練」の三つのテーマで、各コミ協から27名が参加し、4グループに分かれて活発な意見交換がされました。

こちら、防災講演会のようすです。津波の到達時間の動画が多くの人に興味を持たれました。こちらは防災ワークショップのようすです。大変活発な意見交換がされました。ありがとうございました。

もう少し時間があればよかったなというところで、別のイベントと合わせてスケジュールの時間が過密になるというのは、少し難しかったのかなというのが反省点です。

ワークショップでは、付せんには課題となっていることを書いて模造紙に貼り付けまして、それに対して皆さんの意見などを出してもらい進行していき、数々の意見が出されました。皆さんで意見交換をすることで解決の糸口が見えてきたものもあったのではないのでしょうか。そのワークショップのまとめは、このような紙面にして12月の自治協議会にて配布し、各コミ協に持ち帰っていただきました。

そして、地域にご協力いただいたアンケートですが、現在まとめを作成中です。アンケートは記述式の設問が多く、中には誹謗中傷や個人情報なども含まれ、とてもそのまま公開することはできないものでした。そして現在、まとめを作成中です。大変遅くなりましたこととお詫び申し上げます。アンケートの結果を待っている方もいらっしゃると思います。

そのアンケートですが、本当に深く考えて、なるほどな、素晴らしいなという意見も見られましたけれども、防災について理解が薄いということで、勘違いの苦情みたいなものは、やはり多く見受けられました。また、古い情報のまま、令和の時代のものにアップデートされていないというようなアンケートも見られました。そして、アンケートのまとめのあとに、第2部会で気づいたこと、多くは、やはり津波で逃げた一時避難場所と生活する避難所の違いなど、それを勘違いした方が多いので、避難所運営マニュアルを見ると非常に難しいので、少し簡潔にした、参考になる資料も付けますので、それを見ていただいてお役に立てれば幸いです。3月の自治協議会で配布いたします。アン

ケートをまとめているときに一番感じたのが、やはり、全般的に自助という意識が薄いなという感じがしました。防災、防災と叫ばれて10年以上たっていますけれども、最初のほうは自助・共助・公助と、合い言葉のように、自分のことは自分で守ると言っていたのですけれども、やはり、時間がたつにつれて人の意識はだんだん薄くなってきて、人任せや行政に頼ろうとしている方が大変多く見受けられます。

それで、最後に一言言いますと、災害時というのは被災地域全員が被災者です。ここにいる行政の方々もみんな被災者です。そういう意識を市民の多くの皆さんが持てば、防災に限らずすべてにおいて新潟市は素晴らしい都市になっていくのではないのでしょうか。以上で、第9期中央区自治協議会第2部会の活動報告を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

(議長)

米倉委員、ありがとうございました。

それでは、ここで質疑応答に入ります。今の発表について、質問、意見等ございますでしょうか。

(山岸委員)

鳥屋野校区コミ協からまいりました、山岸と申します。よろしくお願いいたします。

私、2月16日の日曜日にありました、西蒲区の自治協議会が開催した講演会「リアル避難所体験 理想と現実・防災と減災」に行っていました。大学病院の先生が最初に講演してくださって、海外では、地震、何か有事があったときにはほかの州からすべてのものが用意されてという、医療道具も全部病院のようなシステムが整うのです。とても日本とは違う。その先生がおっしゃったのは、日本は島国だから、あまりほかから、有事というか戦争とかそういうことに関して意識が薄すぎて、自分たちの中でみんなやってしまうからだめなのだと。お水も区で買ったものは他区には持って行かれない、市で買ったものはよその市には提供できない、県で買ったものは他県には、隣の県でもどうぞとやれないようなシステムになっているということをおっしゃって、一生懸命お話しくださったのです。

それで、最後の質疑応答のときに、手を上げた女性の方がいらして、私は三日分、全部自分のものは用意しています。それで、それを持って避難場所に行ったら、だれかにやらなきゃいけないと思うので、私はそれがいたたまれないのですというように大きく声を張り上げていらっしゃったので、私だったらどうぞなんて言ってしまうようなのですけれども、そういった場合は、やはり、先ほど米倉部会長がおっしゃったように、これだけ自助、自助と言っている、私も薄れてくる。やはり、どれくらいかに1回は自分の認識をアップデートするためにも、そういう講演などを自治協でしていただくと、またみんなの意識も変わっていくのかなというように感じました。しかし、第2部会のこの講演会も参加させていただいて、どちらも自分の意識をまたしっかり認識する機会

になってよかったなと思いました。ありがとうございました。

(米倉委員)

私もそれは行きたかったのです。残念ながら、自分の町内のことで少しありまして、行けなかったのです。行った方々がよかったと言っていましたので、本当に残念だなと思います。そういったことも、中央区でも何か少しやりたいですね。ありがとうございました。

(議 長)

ありがとうございます。

ほかに何かございますか。よろしいですか。それでは、第2部会の皆さん、ご起立をお願いします。それでは、第2部会の素晴らしい発表に対して拍手をお願いします。

(米倉委員)

ありがとうございました。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして、第3部会の発表です。田中委員、よろしくお願いします。

③第3部会（資料 報1-3）

(田中委員)

お疲れさまです。第3部会の田中が発表いたします。

まず、我々の部会に与えられたテーマは、水辺と緑化ということでした。それで、水辺と緑化は非常に爽やかな感じで楽しめるのではないかなと入ってみたら、わが新潟市中央区の水辺というのは、日本海、信濃川、鳥屋野潟という広大な水辺を持っているわけですし、最初は困惑したのですけれども、我々メンバー8人、非常に前向きで、まずは行ってみようてということで、早速、日本海、信濃川、鳥屋野潟、現地学習で回りました。

それで、ここに描いてある絵は、フォーラムのときに、今日、パンフレットを配付させていただいておりますけれども、チラシにもなった、我々が提唱する公園の絵ですけれども、追々お話ししていきます。

それで、今申し上げたとおり、三つの広大な水辺と緑化ということで、結果的に、あまりにもそれだとテーマが大きすぎるので、鳥屋野潟1本に絞りましょうということになりました。それで、現地学習したようすですけれども、右側が皆さんお分かりのとおりミズベリング、やすらぎ堤です。左側が鳥屋野潟の親松排水機場です。中まで入って

いろいろ、この排水機場の役割だとか、勉強させていただいて、鳥屋野潟というのはちょっと問題がありそうだなということが分かってきたわけです。

そして、これは去年の夏なのですけれども、漁協の方をお願いして鳥屋野潟で乗船体験をしました。一番左側の舟の船頭さん、ピンク色の編み笠を被った人がフォーラムでもお話しいただいた大野さんという本当に素晴らしい方です。乗船中はフナが舟に飛んでくるのです。最近、鳥屋野潟の水がきれいになって魚が元気になってきたのですね。それもおいしいということで、毎年捕まえて食べているコミ協もあるのです。

それで、鳥屋野潟の検討ということで、さまざまな関係する方とか有識者とかをお招きして勉強したあげく、今回のフォーラムを開催することとなりました。

この「とやのテラス」という名称が出てくるまでも、ものすごい議論がありました。「桜テラス」というのが、対抗馬でありました。桜がきれいですから、鳥屋野潟。だけれども、桜って言ったってどこでもあるだろうと。やはり、鳥屋野潟だから「とやのテラス」でしょうというような。

鳥屋野潟というのは一級河川なのですね。一級河川というのは、基本、国土交通省が管理ですが国が直接手を出せないの、代理として県がするわけです。それで、県の計画の中には何十年も前からいろいろなことが書かれているのだけれども、そこからほとんど何も進んでいないというのが現状だと。実は、佐藤会長がこの問題に長年取り組んできた方で、部会で2回、3回くらい鳥屋野潟の問題点についてレクチャーしてくれましたけれども、本当に問題が多いとわかりました。

県が描いた計画の中で、この赤枠の部分が、公園の計画地です。実際にこの辺りは少し整備されつつあるということなのです。それで、我々が考えたのは、ここ、桜木町地区です。ここは桜木インターから下りて来ている、そして、よくある絵で、桜の木、そして鳥屋野潟、その向こうにビッグスワンという写真がよくあると思うのですけれども、それはみんなここで撮られているのです。一番景観がいいところ。ここしかないだろうと。それも、勉強をする中で、白鳥が渡来して休んでいるからこの辺りはだめとか、さまざまなことでここがベスト。では、ここに公園を計画しようということになりました。

それで、パンフレットにもありますけれども、このパンフレットも、我々は一生懸命このフォーラムに思っている思いをここに込めようと。これは、鳥屋野潟ってなんて素敵でしょうねと思える絵。そして、その絵の一番下、南側のところがこの公園構想の舞台です。

実は、今だからもう言えるのですけれども、私はしも町の湊地区コミ協からの選出で来ていまして、鳥屋野潟は、行くと綺麗だなとは思いますが、あまり興味がなかったのです。それで、佐藤会長はこの道のオーソリティです。それから部会メンバーで言うと、森本委員は水辺の会のメンバーだし、八木委員という山潟地区の人たちこそ、鳥屋野潟の恵みを食する会のメンバーです。女性メンバー3人は、あまり鳥屋野潟に興味がなかった。ところが、やってみると、確かにこれはやる意義があるなというようになって

たわけです。

つまり、鳥屋野潟って、実際に見てみるときれいだよ、すごいよ、ポテンシャル高いよっていうことを絵で表現したかったのです。しかし、我々は描けないから、描ける画家、荒井さんという人に来てもらって、我々の思いを伝えて描いてもらったのがこれです。これが公園の絵で、その詳細はパンフレットにもあるのですけれども、水辺を満喫する公園でありたいというようなことで、満喫できるような仕組みをこの中で考えました。やはり、ボートは必要だろうとか。パンフレットには、ブランコとか、ビクターセンター、カフェがあります。

これがフォーラムの様子です。60人以上のお客様、わが中央区長、佐久間区長を筆頭に行政の方、それから議員も来られていました。内容は素晴らしかったです。一人一人はご紹介しませんけれども、パンフレットにある方々がそれぞれの立場で素晴らしいお話をしてくださったのです。我々としては、鳥屋野潟はとてもさまざまな問題を抱えているので、その問題を掘り起こすということではなくて、こういう公園があると絶対に鳥屋野潟が発展するから、この公園を実現するためにどのような方策がありますかと。また、もしくは、障害があったらそれはどのようなものですか、そしてそれをどうやったら取り除けますかということを発言してくださいねというようにお願いして、それで前向きな議論をやっていただくというようなことをお願いしましたので、本当に明るく爽やかなフォーラムになったというように思います。こういうように若い人も若くない人もおられました。結果として、フォーラム満足度 90 パーセント、ほとんどの人が、ああ、よかったなと思って帰ってくださった。

フォーラムというと格好いいのですけれども、1 回限りのイベントでしょうと。ただ、こういうことすら昨今は減っている。実際に市民がどう考えているのかというと、先ほど私が申し上げたとおり、あまり関心のない新潟市民、中央区民がたくさんいるわけです。そういう人たちに対して、こんなに素晴らしい鳥屋野潟という資産を活用しようよというような、そのために一発ずつでも手を上げて、一発ずつでも穴を開けていくことによって、少しずつ市民の意見が醸成されていくのではないかという一翼にはなったかなというように思います。

それでは、質問タイム。はい。

(松川委員)

第 1 部会の松川です。

田中委員、お疲れさまでした。素晴らしいフォーラムだったと思いますし、面白い計画で、先ほど言われたように、計画自体は県が担当部署なので、これを絶対に県に出していただきたいと思います。私は上越と長岡の間を高速鉄道で結んでくれというのを、前の前の知事に直接手紙で送ったことがあるのですけれども、交通政策局長から直接返事をいただいて、そのあとの計画にも一部取り入れてもらったようなことがありますので。先ほどおっしゃったように、あれは平成 28 年の計画書ですけれども、これから整

備するのであれば、そこに計画変更として「とやのテラス」を入れていただくと。ぜひ、皆さんで出していただくことで、将来につながる、1 回限りのイベントでは決してない、将来の足がかりになる素晴らしいイベントにさらに発展していくものだと思いますので、ぜひ、県に出してみてもいいのではないでしょうか。ぜひ、お願いします。

(田中委員)

県との絡みについては、佐藤会長、少し発言できますか。

(議 長)

振興局には頻繁に行っておりますので、資料を持っています。

(鈴木委員)

豊照地区コミュニティ協議会から選出されています、鈴木です。

田中委員を含め、第3 部会の皆さん、本当にお疲れさまです。素晴らしい内容を聞かせていただきました。思うに、新潟は本当に気候の激しいところなので、やはり、オールシーズン使っていただけるような形で、もう少しまた案を練っていただいて、これから先ずっと全天候型で使っていただけるような部分もあったらいいのではないかなというように意見をさせていただければと思います。よろしくどうぞお願いいたします。

(田中委員)

ありがとうございます。その件について、当日参加された若いお母さんから、子どもの遊び場としてオールシーズン楽しめるような公園だったらいいのでお願いしたいという発言がありました。そのときは、そうですね、分かりましたというだけの返答だったのですけれども、実は、私は思うのですけれども、一つの施設だけですべてをフォローするというのは難しいと思うのです。それで、すでに鳥屋野潟というのは自然科学館とか図書館とかいろいろな施設があります。それから、少し離れてはいるのだけれども、大きなショッピングモールとかもあると。つまり、そのエリアとして、もしくは地域としてさまざまな施設の中で、あの辺に行くと楽しめるという、大きなゾーンとして考えられるのではないかなと思うのです。それが一番、鳥屋野潟南西部も含めて、新潟市が持っているポテンシャルではないかと思います。

(吉岡委員)

沼垂小学校区コミ協の吉岡と申します。

私が青春時代、鳥屋野潟でボートを借りて漕いでいた憶えがあるのですが、昭和 40 年代後半から 50 年代前半に欠けてなのですけれども、相当水質が悪かったのですけれども、生活排水があそこに入らなくなって改善はされたと思うのですけれども、最近もう行っていないものですから、現在はどんなようすなのでしょう。要するに、子ども

たちが遊んでも大丈夫なのかなという心配がまだあるのです。その辺、もし知識がございましたら教えていただければありがたいと思います。

(議 長)

ありがとうございます。私もそうですけれども、昭和40年代、50年代は一番汚いころでした。それから下水道がほぼ完璧に進みましたので、今は、それぞれの住宅から汚水が流れているというようなことはほとんどありません。よって、水質もかなり綺麗になりまして、今、フナとか鯉がたくさんいて、水の中に手を入れたり足を入れたりしてそれらを捕まえても、匂うとか汚いへドロが出てくるというのはほとんどなくなりました。そして、それらの魚も山潟地区コミ協では鳥屋野潟の恵みを食する会というものを二十何年もやっているのですけれども、保健所に調べてもらっても全然変な物質は出てこないで、かなりきれいになって、もう人前に出しても大丈夫というようなところまで来ていると思います。

(田中委員)

漁協の方が毎月のように、例えば、学校の総合学習か何かで子どもたちをボートに乗せて鳥屋野潟を見せたり、それから実際に鳥屋野潟の中に入ってごみを集めたりというような活動もされているということで、素晴らしいのです、行ってみると。

(樋口委員)

関屋小学校区コミ協の樋口です。時間も押していますので、早めにいきます。私もこのフォーラムに行って話を聞かせていただきました。大変素晴らしい内容でしたし、委員の皆さんも一生懸命で感銘を受けました。

それで、当日、佐久間区長も佐藤会長もいっていらっしゃったのですけれども、今回、これから報告があると思うのですが、中央区の特色ある区づくり予算という中に、西海岸公園等利便性向上事業というものが新しく入りました。これは何かというと、昨年までは区長提案事業という形の中で、日和山浜魅力創出事業ハマベリングというものが立ち上がりました。実際に、大変素晴らしい公園になっています。

それで思ったのですが、せっかくこういういい施設を考えたわけなので、もしできれば、今度、これを中央区の区長提案事業として格上げをしていただいて、そして、また佐久間区長からご尽力いただいて、今度は日和山浜ではなくて鳥屋野潟なのだというようなものが実現できたらいいのではないのでしょうか。余計なことを言いまして、すみません。

(田中委員)

管理者が県なので、区としては手が出せないところなのだけれども、それは市民が盛り上げていくということで。

今、ハマベリングの話が出たのですけれども、我々の住むしも町の海辺にスポットライトを当てていただいたのですけれども、今年度からの事業で、今度、その左岸のほうも盛り上げようではないかという事業が始まるようです。けっこう中央区地域課、頑張っているなというように思いますので、皆さん、注目してください。

(若木委員)

第1部会の若木です。

少し便乗ですけれども、ここまでやるのであれば、ぜひ、ラムサール条約に便乗していただいて、鳥の博物館を造っていただければなど。鳥屋野潟たくさん鳥がいるわけですから、これを一つのところで見られるというか、勉強できるような場所を造っていただければと思います。

(田中委員)

ありがとうございます。最初から大規模なことではできないですけれども、ビジターセンターの中にさまざまな見所を設けたいなというような議論は、我々していました。

あと、ついでに報告漏れでしたけれども、県の取組みなどのパンフレットを参考資料に配りました。それから、今日配付しましたけれども、クリアファイル。ラムサール条約の自治体として新潟市が2022年に国内で初めて認証されたのですが、フォーラム当日、U・STYLEの松浦社長にパネラーとしてご参加いただいたのですけれども、クリアファイルにはU・STYLEが提案して採用されたマークが使用されています。今後、国際湿地都市新潟を世界にアピールするという旗頭にこれを使っていくということです。ちなみに、今後、国際会議、世界湿地都市ネットワーク市長会議というものが新潟市で開催されるのだそうです。そういう部分もこれからどんどん市民にアピールしていったらいいなど。

ということで、第3部会の部会はとても楽しかったね、毎回毎回ね。本当にありがとうございました。

(議長)

田中委員、どうもありがとうございました。

続きまして、第4部会です。唐沢委員、北川委員、よろしくお願いします。

④第4部会（資料 報1-4）

(唐沢委員)

第4部会です。よろしくお願いいたします。所管分野は、歴史・文化、産業、まちなみです。

まず、最初の部会で、部会で取り組むことは何か、委員がそれぞれ自分が興味、関心が

あることを持ち寄って紹介するところからのスタートになりました。ウォーターフロントを意識したまちづくりはどうか。古町芸妓をもっとアピールしたい、あるいは、新潟といえばこれというものを見つけ出し、アピールしたい。高齢者に優しいまちなみについて考えてみたいなどが上がりました。

これらの意見を少し方向付けたいと、第8期第3部会が行った中央区の市民アンケートを活用することにしました。中でも、中央区自治協議会として最も力を入れて取り組んでほしいものについては観光が多く、つまりは、誘客の増加を望んでいることが分かりました。そこで、誘客につながる新潟市の観光について、学習会を行うことにしました。

一つ目の学習会は、新潟市外から新潟市に派遣されている方が中央区の観光をどう見ているかという視点で話をさせていただきました。講師は、佐渡市から観光・国際交流部観光推進課に派遣されている男性職員です。

話の主な内容は、新潟市は、これといった目立ったものがない。中央区は、外からの中継地点として買い物や食事で利用されていることが多い。だから、新潟市に長く滞在してもらって楽しんでもらえるよう考えていく必要があると。そこで一つ提案だが、新潟市の強みである食に焦点を当てて、その文化や観光について掘り下げてはどうか。それと、中央区の住民が中央区の観光資源について、その歴史や魅力を正しく理解し、PRできるようになることがとても大切ではないかというお話がありました。

二度目の学習会は、座談会として、中央区に長く居住し、中央区のことをよく知っている方との意見交換会という形で行いました。講師は、新潟シティガイド1期生の渡辺博さんです。中央区の観光を知り尽くされている方です。

座談会で出た主な提案事項などです。新潟市は、何かのついでに立ち寄る場所だ。新潟といえばこれ、新潟といえばここと言えるものを部会で調べ、提案してはどうか。それから、外部の人の眼で視た新潟市のよさを知ることで、普段あるものの魅力に気づかされることがある。古町花街は全国的にも長い歴史があり、もっと観光に役立てられると思うなどのお話、提案をいただきました。

ここまでの学習会あるいは話し合い、アンケート結果を基に、第4部会の方向性を決めるワークショップを行いました。テーマは食、情報発信、観光、花街の四つとしました。

ワークショップで出てきた主な意見等を紹介します。食に関しては、食の歴史や食のクイズ、食のエピソードを盛り込んだマップ制作をしてはどうか。あるいは、老舗やあまり知られていないお店を取材し、紹介のチラシを作成してはどうかなどがありました。情報発信については、マップ制作、あるいはSNS等を利用して地元住民お勧めの普段使いの店の紹介はどうか。SNSを使用して若者がお店を利用しやすくなるような仕掛けができないか。観光については、観光循環バスにシティガイドが同乗し、さまざまなスポット紹介をしてはどうかなどの意見がありました。花街については、新潟は京都、東京新橋と並ぶ三大花街、世界に向けてもっとアピールできないかなどです。

これらのワークショップからキーワードとなるものを絞り込んでいきました。発表者を代わります。

(北川委員)

キーワードは三つということで、まず、食。新潟はこれというものが無いということなのですけれども、食に関しては、どの店に行っても大きく外れることがない、皆さんも外食されることがあると思うのですけれども、どの店に行ってもおいしいというのは新潟の強みになると思います。そして、キーワードの二つ目、老舗です。こちらは、老舗店の背景にある歴史を掘り下げていけば、中央区の魅力が高まるのではないかという視点から、キーワードの一つに選びました。三つ目、若者です。とにかく若者の発信力がえぐい。えぐいというのはすごいという意味らしいのですけれども、若者をターゲットにすることで、その発信力を利用して中央区をもっと多くの人に知ってもらいたいという意図で、キーワードを設定しました。

そして、キーワードを若者に設定したのですけれども、そういえば、今の若者に話を聞いていないよねということで、専門学校や大学に通う学生3名をお呼びして、お話をお聞きしました。まず、古町地区のイメージなののですけれども、古くからのお店が多い。しかし、それに対して上古町は若い人たちが行きやすいよねという話がありました。また、万代地区なののですけれども、ファッション性が高いという意見がありました。そして、老舗のイメージなののですけれども、老舗自体知る機会がなくて分からないという意見がありました。そして、老舗紹介の方法なののですけれども、何となく敷居が高いように見えるから、店主の顔ですとか人柄が分かるようなリーフレットを作ると手に取ってもらいやすいのではないかとということで、そういった意見を参考にいたしまして、第4部会は老舗紹介のリーフレットを作りたいということで、決定いたしました。

そして、早速取材を開始いたしました。積極的に学生たちにも参加していただきまして、お店を訪問しまして、インタビューをいたしました。そして、このリーフレットなののですけれども、思わず開きたくなるリーフレットということで、ステップ5をまとめました。皆さん、お手元にリーフレットのご用意をお願いいたします。まず、ステップ1、ヤング、皆さんそれを見て驚かれたと思うのですけれども、何だヤングってということで、今のヤングがこれを手に取ります。もちろん、昔のヤングでも構いません。

ステップ2、自治協議会はこんな活動をしているんだということで、半分開いていただきますと、自治協の活動内容ですとか、第4部会はこうしているんだよという紹介が載っています。

そして、裏返して見ていただきますと、ステップ3、いろいろなお店が載っています。老舗というと、京都ですとか東京、浅草などを思い浮かべる方がいらっしゃるのですけれども、新潟にもけっこう老舗あるねということで、興味がわいてきます。

そして、ステップ4、もう一つ開いていただいて、黄色の面です。学生たちが老舗を楽しそうに紹介しているよということで、老舗楽しそうだねと。それで、ハードルもそ

んなに高くなく、もしかしたら自分たちも楽しめる場所なのかもしれないなという感じになります。

そして、ステップ5、全部開いていただいて、この裏面になります。中央区にはこんなにたくさん老舗があるのだ、よし行ってみようということで、この老舗紹介のヤングの老舗めぐりのリーフレットを持った若者たちで、恐らく選んだ老舗店は一杯になることかと思えます。

そして、リーフレットの推しなのですけれども、早いうちに若者をターゲットにしようということが決まっていたので、ヤングの老舗めぐりということをキャッチコピーとして大きく載せました。そして、二次元コードも各店載せまして、ここを読み込んでいただきますと、バスでこういう経路で行けますとか、もちろん、地図での案内も分かるようになっております。学生のインタビューの写真も多く入れております。

そして、こちらなのですけれども、真ん中のところに中央区の地図を載せることにいたしまして、よく、こういうリーフレットを作ると、やはり、古町・本町が中心になることが多いのです。せっかく部会でいろいろな地区からメンバーが集まっていらっしゃるので、それぞれの地区の紹介もしようよということで、五つの地区から老舗店を選びまして、全部で10店舗なのですけれども、紹介しております。そして、コラムなどで中央区の歴史ですとか案内を紹介するようにしております。また、おいしそうな画像もたくさん入れて、若い方々が目で見えて楽しいなということを思っただけのような演出もしております。こちら、合計で4,000部、学校などを中心に90か所以上に配布しております。

(唐沢委員)

本人は言わなかったのですが、この「ヤングの老舗めぐり」というタイトルは、我々、部会でいろいろな意見を持ち寄って若い人の意見を参考に決めました。発案者は、隣の北川委員です。

リーフレットの作成を目標として活動を進めてきましたが、活動を終えて、委員がそれぞれ感想を述べていますので、その感想を紹介させていただきたいと思えます。

敷居が高いと思われる老舗が意外とフレンドリーでウェルカムな存在であることを知っていただきたいという思いで取材を開始した。それから、若者は老舗に抵抗を持っているとは感じられず、チャンスがあれば利用したいという気持ちが伺えた。金銭的な面で安い店とか、あるいは気軽に入れる店を選ぶ傾向が見られた。それから、どの老舗にも歴史やエピソードがある。それはその店の人であり、あるいは物であると。それを知ることによって店への一層の愛着がわいてくるのではないかと。それから、普段、何気なく行っていた店の熱い思いに取材を通して触れることができ、ますますその店が好きになったということ。自分たちにとっても、新潟の歴史、食、文化の再認識等、新たな発見となったということ。

ただ、若者たちにもう少し早く配って若者の声を聞きたかったというのが反省点とし

て残っております。

なお、配布した店の声を紹介したいと思います。こんな立派な物を作っていただき、うれしいですと。いくら払えばいいのですかということも言われたのですが、これはただですというように言っておきました。これは三河屋さんです。リーフレットがきっかけで若者の来店が増えました。これは沼垂のほうの吉岡さん推薦のアベック食堂です。それから、商品を県外に発送する際に、その商品にリーフレットを同封したいと。これはさわ山の団子屋さんです。こうした声があって、追加配布の要望もあり、増刷を行うことにしました。

まとめになります。地域の歴史、文化を知るための一つの道しるべとしてこのリーフレットを活用してほしい。それから、このリーフレットで中央区の食への認知度が高くなると嬉しい。

昨日、たまたま私はちょっと会があって東区の方と話をしていたのですが、その方々にこのリーフレットをお見せしたら、東区もほしいと。東区はないというように言っていましたので、東区もできるといいなと思いました。それから、若者にも中央区といえどこれを食べたいとか、老舗といえどここといえるものに出会ってほしい。例えば、私ですと、大福ならさわ山の団子を食べたい、笹団子なら田中屋の笹団子というように、すぐそういう言葉として出てくればいいのではないかと考えております。

それから、若者が持つ発信力は大きな力となりました。若者の発想が、私らも考えもつかないようなことがぽんぽんと出てきましたので、非常に影響を受けました。そして、彼らがSNSを当たり前に使っているということに感動というのでしょうか、ちょっとしびれるものがありました。食と歴史、文化をセットにして中央区の魅力を高め、観光の誘客につなげていきたいということです。

以上で、2年間の活動の紹介を終わりますが、このヤングの老舗めぐり、意外と本当に評判がよくて、選出母体、例えば、どこかのコミ協とか何かで配りたいというのがありましたら、ご希望の方いらっしゃいましたら、会議終了後、事務局までお声がけください。クロスパルなども、出したら即なくなったという話も聞きますので、作ってよかったなと思っております。以上で報告を終わります。

(議 長)

唐沢委員、北川委員、どうもありがとうございました。

ここで質疑応答ということで、質問等ございましたら挙手をお願いします。

(松川委員)

第1部会の松川です。

このリーフレットを駅の観光案内所に置いてもらえますか。あそこは発信力が相当大きいと思うので、ほかのパンフレットを取る方も多いので、置いていただいたら効果があると思います。お願いします。

(北川委員)

ご質問、ありがとうございます。私たちの部会でも、駅に置いてほしいねという話が出まして、観光政策課を通して新潟駅の観光案内所に配布を依頼しました。その他、私たちのほうで、例えば、公民館ですとかコンベンションセンターにも行っているの、いろいろな方々が集まるようなところで見ていただきたいなと考えています。ありがとうございます。

(小林(寿)委員)

万代地域コミュニティ協議会の小林と申します。このヤングの老舗めぐりのパンフレット、素晴らしいと思います。それで、ヤングとは書いてあるのですが、開いたときに私が一番魅力的だなと思ったのは、地図です。私は万代のほうにいますけれども、例えば、関屋とか白山のほうは少し遠いのですが、沼垂はすぐですので、では自分のところから近くのところにまず行ってみようというように、ほかの地域のここも行ってみようかなというように広がっていくことができるので、地図が、新潟市中央区の割と全体を網羅している、そこがすごくいいところではないかなということで、ヤングとは書いてありますけれども、自分の家の近くだから行ってみようというような方が増えるのではないかなというような気がします。ありがとうございました。

(上之山委員)

上山校区コミ協の上之山です。大変素晴らしいパンフレット、ありがとうございます。

私は第1部会なのですが、第1部会も食、それで、第4部会も食ということで、両方相互にかかわりがあつたらいいかなと。例えば、このリーフレットのところに第1部会の二次元コードを入れたり、または、第1部会のインスタグラムにこのパンフレットを載せたりとか何かしたら、もっと相乗効果を期待できるのではないかと思います。

(議長)

素晴らしい意見、ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいですか。

素晴らしいと思います。それでは、第4部会の皆さん、ご起立をお願いします。素晴らしい発表に対して拍手をお願いします。ありがとうございました。

それでは、最後です。中央区自治協議会だより部会、小林委員、よろしくお願いします。

⑤中央区自治協議会だより編集部会(資料 報1-5)

(小林 (栄) 委員)

自治協議会だより編集部会の小林と申します。

最初に、今日、机の上に上がっています今回の第9期の最終号、第34号を見ながらお話を聞いていただければと思います。まず、この編集会議、みんなで集まったのが1月24日のものです。

並べてみると分かると思うのですがけれども、最終号は、今まで皆さんが発表された4部会の2年間の活動を読み手に十分に伝わるような誌面作りを考えました。まず、みんな横文字で書いてあるのですがけれども、中央の「2年間の活動で描いた中央区の未来」は縦書きにして、割とインパクトのあるようなものにしました。あと、右肩上がりのほうが未来を表すことができるのではないかという委員の意見がありまして、お手元の完成版になっています。

もう一つは、過去のもを見ると、例えば、一番大きいもので見るならば、「にいがた推しメシプロジェクトin古町・本町」というものを最初に見ることができるのですがけれども、今までは「第1部会」と分野が先に大きく書いてあって、皆様の活動がもう少し小さいものだったのですがけれども、私たちの部会では、第1部会とか第4部会とかそういう部会名というよりは、何をしてきたかが読み手に伝わるようにしたいということで、そのところを大きくしてあります。

あともう一つ、今回の広報紙は今までと違い広告が1か所しかなかったもので、偶然にも下段にスペースができました。これは委員みんなで、編集後記という形ではなくて、自治協だより編集部会がこの2年間の活動を通して、今の時代を踏まえて考えさせられたこと、思ったことを伝えようということで、山岸委員から代表して書いていただきました。

次に、紙面内容ですけれども、先ほどの第3部会のイメージが絵になっていますけれども、ほかの部会と違って絵だったので、イメージが不鮮明ではないかという意見もあったのですがけれども、とやのテラス構想ということなので、鳥屋野潟と公園との位置関係が一目で分かる今までのものでいいのではないかということで、当初の案のとおりになりました。

それで、二次元コードも、各部会のところにそれぞれありますけれども、最初は一つにして、それぞれの部会に飛んでいってもいいのではないかという案もあったのですがけれども、例えば、今、最後にお話しになった第4部会ですけれども、ここのお店に行きたいと思ったら、すぐにアクセスできる二次元コードがいいのではないかということで、4部会とも作る形になりました。

最後ですけれども、たより部会の自慢話をさせていただければと思います。令和5年に、部会活動が始まり少したったときに、事務局から市政世論調査結果が示されました。それで、中央区自治協議会の認知度が新潟市8区の中で最下位ということを知りました。そこで、この部会の委員は、自治協の宣伝マン、宣伝ウーマンとして、とにかく読んでもらえる紙面内容、紙面構成を心がけてきました。私たち8人は、各部会、4部会

から2名ずつ出てきていますので、その各部会を背負っての紙面を作ることができたので、より深く真剣に、文字とか言葉とか色とか、よりよいものを作ることができたのだというように私は思っています。

一番左のほうからは、ここは第1回目ですから、とにかく自治協議会の認知度が低いので、自治協とはというところが一番上にあるのですけれども、これに決まるまで、ものすごく討論しました。あまり書きすぎるから分からないのではないかと。逆に引き算をして、知ってほしいことだけを入れようということになりました。それで、第1回目ですから、各部会の最初の報告みたいな形です。次に、第2回目、学生委員にインタビュー。これは本当に反響がありました。うちのコミ協からも、ほかのコミ協からも同じですけれども、若い学生さんが自治協議会委員になってるの、というような質問がありました。

最初に戻りますけれども、とにかく自治協議会の認知度が低い。若い人に質問してもらったことに答えてもらうという形式をとりながら、いろいろなことを発信していきたいという願いがこもっています。下のほうは、私たちはみんな地域活動をしている人しか集まっていませんので、では、地域活動を始めたきっかけは何ということから始まりました。

次に、第3回目ですけれども、どこの自治会も悩んでいるなり手不足について取り上げ、たより部員の一人、上之山委員が実践している「スマート自治会」の取組を紹介しました。

次に、右のほう、ボランティア活動についてなのですが、これは、また反響がありました。ボランティアなのだから無償ではないかと、ボランティアでも有償でなければおかしいのではないかとというような反響があった号です。それで、全4号になったのですけれども、今のように1号1号個性があったというように思っています。それは、委員がさまざまな意見を出して、全員が単語一つ、色一つにものすごく討論しながら会議を進めていたという、熱意の表れだったと思います。

また、ここにおられる4部会の皆様には、申し訳ないほど字数制限ありの原稿依頼をしたと思います。しかし、これは最終号に免じて許していただければありがたいなと思っています。本当に皆様、2年間ありがとうございました。そして、事務局の皆様には本当に感謝しかありません。本当にありがとうございました。10期の中央区だよりをすごく楽しみにして応援していますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(議 長)

小林委員、ありがとうございました。

それでは、編集部会の皆様、ご起立をお願いします。

皆さん、ご苦労さまでした。大きな拍手をお願いします。小林委員、どうもありがとうございました。

これで、皆様の部会の発表はすべて終了しました。ここで、10分間休憩を取ろうと思

います。また4時10分ごろから始めますので、よろしくお願いします。

(休 憩)

3 議事

(議 長)

皆様、よろしいでしょうか

それでは、議事に入ります。最初は、中央区自治協議会第10期委員改選について、若木委員、よろしくお願いします。

(1) 中央区自治協議会 第10期委員改選について(資料 議1)

(若木委員)

公募委員の若木です。中央区自治協議会第10期委員改選についてのご説明をしたいと思います。皆さんのお手元に資料、案として、中央区自治協議会委員推薦名簿というものがあると思います。まず、その説明をしていきたいと思います。

委員推薦会議では、第10期の委員構成枠について、12月の全体会議で皆さんからご承認をいただいた、委員の構成枠に基づき、事務局より各団体に推薦依頼をして、ここに書いてある名簿(案)のとおりまとめましたので、まずはご報告させていただきます。

まず、1、地域コミュニティ協議会の選出者については、各コミュニティ協議会から1名、ここに書かれているとおり名前が挙がっております。次に、2、区ビジョンまちづくり計画の4分野からの選出者につきまして、こちらは12月の全体会議開催時に配付した資料では、団体名しかお示ししていませんでしたが、それぞれの団体から、ここに書いてあるとおりの名前が挙がっております。次に、3、区長が必要と認めたもの及び公募によるものです。まず、区長推薦枠については、事務局と区長との調整を経て、多様な意見をまちづくりに反映させるため、次世代を担う若い世代の参加を促すこととし、書いてある大学と専門学校から1名ずつ推薦することになりました。最後に、公募委員について。昨年12月25日から今年の1月27日まで、約1か月間募集を行いました。そこで5名の方からの応募がありました。私たち委員推薦会議では、5名の方から提出された書類を委員それぞれの評価をし、採点を行いました。その結果、集計し、合議をしたうえで、この3名の方を選定し、推薦することとなりました。

公募委員3名の内、1名は、今回新設しました40歳以下の枠で、石橋純さんという方を選びました。続きまして、一般枠の2名の公募委員は、保坂里枝さん、それから松川由人さんです。松川さんにおかれましては、第9期に引き続きということになりますが、公募委員としては1期目となりますので、新任と記載させていただいております。

以上、合計 32 名、その内、新任の方が 18 名、再任の方が 12 名、再々人の方が 2 名となっております。以上で、委員推薦会議での決定事項について説明を終わります。皆様からご承認をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

(議 長)

ありがとうございます。

今、若木委員から説明があったのですけれども、これについて質問、意見等ございますでしょうか。

(森本委員)

すみません、事務的な話で。新潟水辺の会から推薦されております森本なのですが、特定非営利活動法人です。活動が抜けておりますので、よろしくお願いいたします。

(議 長)

活動が抜けていたそうです。ほかに、小林委員、お願いします。

(小林 (寿) 委員)

万代の小林と申します。

少しお聞きしたいのですけれども、今日の発表でも、若い人がいろいろ新鮮なアイデアがあったかと思うのですけれども、学生のところで、それぞれの学校から一人ずつなのですけれども、人数を増やす方向とか、そういうものはないものなののでしょうか。学生の立場にすると、人数が多い方がこんな印象だったよねとかという話もできるような雰囲気があるのですけれども、人数はもう決まっているのでしょうか。念のため教えてください。

(若木委員)

事務局、お願いします。

(事務局)

ありがとうございます。我々としても、学生はたくさん来ていただくと、本当に今回の 9 期の皆さんのようにいい活動ができるかなというところです。学生の増員について、今後の課題として検討させていただければと思います。貴重なご意見、ありがとうございます。

(議 長)

よろしいでしょうか。

ほかに何かございますでしょうか。

よろしいですか。それでは、新潟市区自治協議会条例施行規則第 3 条第 4 項において、区自治協議会は推薦会議の選考結果を尊重し、議決により委員候補者を決定するものとするとされているので、皆さん、これでよろしいですか。

ありがとうございます。では、来期はこのメンバーで行くことになりました。ありがとうございました。

3 報告

――委員活動報告――

(1) 委員からの報告について

①信濃川やすらぎ堤利用調整協議会（資料 報2）

（議 長）

続きまして、今度は報告に入ります。よろしいですか。まず、(1) が委員からの報告です。まず一つ目、信濃川やすらぎ堤利用調整協議会、田中委員、よろしくお願いいたします。

（田中委員）

湊地区コミ協の田中です。会議の概要はご覧のとおりなのですが、最後に参考資料として、当日配布の資料の中から、水辺アウトドアラウンジ実績報告（2）という、たくさん当日配付資料があった中で一番重要と思われるものだけ添付資料にさせていただきました。今回の会議は、昨年度の反省とそれを踏まえて今年度、どのような活動をやっていくかを議題としておりました。

先ほどご紹介した添付資料の参考となっている実績報告をご覧いただきたいのですが、上のほうが店舗売り上げで、下が客数です。2024 年、太字で大きい数字が昨年の売り上げ実績です。店舗が全 6 店舗で、6,435 万円なのです。その前を見てください。一昨年、2023 年は 9,800 万円、2022 年は 9,700 万円。つまり、コロナが明けて、恐る恐る再開した 2021 年は落ち込んでいますけれども、コロナ過前、1 億円近い売り上げがあったものが、昨年は 6,400 万円しかなかったというのが現状です。

私前回、昨年あった会議の報告をしたときにこのように表現したのです。売り上げは 5 店舗で 4 か月間に約 1 億売られていますよと。それで、1 店舗平均で 1 か月 500 万ずつ売っていますと。飲食店が 1 か月 500 万円売るというのはすごい売り上げなのです。というような報告をさせてもらったと思うのです。それが今回は、約 1 億円から 6,000 万円に 5 分の 3 減ったわけです。レジ客数ですけれども、やはり 5 分の 3 になっていると。そのことを担当であるスノーピークの方がご報告されるので、委員からは、それをどう思っているんですかという質問が相次いだのです。

それで、スノーピークの説明からいくと、まず、決定的だったのは、集客が圧倒的に見込める土曜日曜の天気が悪くて集客が厳しかったのです。あと、はっきりしたデータはありませんけれどもということで、コロナのあと盛り上がった3年だったわけですが、少し飽きられてきたかもしれないというような報告でした。ではどうしましょうかというようなところになかなかつながらなかったのですけれども、まず、現実を見て、月50万の月給をもらっている人が急に30万になったら大変でしょうと、そのことを真剣に考えましょうよというような雰囲気、その会議が少し厳しいものになったのですけれども、そういう現実を見ながら、今年度、どのようにしたら集客できるかというのを考えていきましょうねというようなことが結論となりました。

私が申し上げたことは、けっこうさまざまな媒体を通じて広報されているのです。ミズベリングのホームページがありますし、それからインスタグラム、フェイスブック。インスタグラムはどちらかというと若い人、フェイスブックはどちらかというと高齢、ホームページはそういう世代を関係なく見られるというような、全世代を網羅しているように見えるのですけれども、実は、スノーピークの主要顧客数というのは、ミドルエイジより上なのです。ラグジュアリーライフというものを売り込んでいますから、若い人がフェイスブックなりを見るだろうかというようなこと。そして、現実を見て、例えば、昨年、ミズベリングのお店で、あの時期、夜に飲食したという方はこの中にどれくらいおられますでしょうか。

一人しかいない、これが現実です。あるのは分かっているけれども、なかなか行けないと。どちらかというと顧客層は若者が多いですね。なので、スノーピークが持っている媒体として、若者たちに届いていない情報があるかもしれないねというようなことを私は申し上げて、多分、その線は大きいのだと思います。そういうことに留意して、今後の計画していることは楽しげなことがいろいろあるのですけれども、それが届いていないということなので、今後、今年の活動に注目していきたいと思います。

実施前の4月くらいに次の会議があると思いますので、またご報告したいと思います。

(議長)

田中委員、ありがとうございました。

今の報告に対しまして、質問、意見等ございますでしょうか。

(鈴木委員)

豊照地区コミ協の鈴木です。

唯一、私一人だけが利用者だったようですが、私は毎年、本当は主人と何回か利用していたのです。最初のころはけっこうご年配のご夫婦とかそういった方々も、夕方から浜辺のところでおいしいお料理を食べていたのですけれども、実は今回、なぜ私は参加したかという、職場の人たちが、久しぶりだから行ってみようよと言って、去年、職

場の人たちと行ったのですが、とにかく金額が思った以上に高く、このペースで行ったらかなり一人の金額がかさむよねという話で、そういったことを気にしながら飲食して帰ってきたのです。やはり、今まで、人が来なくなれば、来ただけその分金額的にアップしていかなければ割が合わなくなってきたのかなと、今、お話も聞いて思ったのですけれども、やはり、利用者は、普段飲食できる、少し気晴らしに何か食べに行こうよと言ったら、やはり、範囲の金額というのがあると思うので、そういったところも加味しながら考えないと、人って集まってこないかなと思うのです。

(森本委員)

的確な意見かどうかは自信がないのですけれども、信濃川のこの場所は、NSTの夏祭りなど、いろいろなイベントはたしかやっているのです。そういうものと連携すると、夏祭りに来たらミズベリングもやっていたと。車で走っていても、あまりよく分かりません。八千代橋のところを私はよく走るのですけれども、あれなんだろうという程度なので、おっしゃるように、キャンプもけっこういい値段取ると思うのです。キャンプのテントを借りると、けっこういい値段取るので、それに対する対策というのは、そこを楽しみたい人が来るしかないのでは値段下げろというのは言わないのですけれども、底上げを図るためには、一般市民に知ってもらうということ言えば、NST夏祭りがあったり、何か歩く会があったり、たしかこの時期、いろいろなことをやっているのです。そういうものと何か連携できるような企画をスノーピークが考えるのか新潟市が考えるのか、新潟観光コンベンション協会が考えるのか、そういうものをやってみるのも一つかなと思います。

(田中委員)

昨年も言ったのですけれども、左岸にミズベリングのお店をずらりと並べてやっていますけれども、実は、ミズベリングという範囲は、右岸のほうも入っているのですが、右岸が万代シテイのほうで左岸がマンションとかの民家が多くて、左岸はそういう住民の配慮からイベントがなかなか組めないということがあるのです。右岸で音楽祭をやったときに、左岸から苦情が来たというようなことがあって、恐らく、マンションの上のほうに住んでおられる方は、けっこう右岸のミズベリングのイベントの音響とかが入ってくるらしいのです。それで、一度そういう苦情が入ると、なかなか盛り上げられないというのがあると。もともと住宅地の中にあるミズベリングですから、一定程度盛り上げつつも、どんどん大騒ぎするような場所にはできないというようなジレンマはあるのだと思います。

あともう一つは、ミズベリングのホームページをご覧になると分かるのですけれども、ミズベリング、プロデュース・バイ・スノーピークとなっていて、ほぼスノーピークにおんぶに抱っこなのです。これを行政もしくは市民としてどうかかわっていくかということも、少し問われているのではないかなという気がします。

(議 長)

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

続きまして、中央区地域公共交通検討会議です。松川委員、よろしくお願いします。

②中央区地域公共交通検討会議（資料 報3）

(松川委員)

第1部会の松川です。資料報3をご覧ください。令和6年度第1回中央区地域公共交通検討会議の模様をご紹介します。日時、会場、出席者等は資料をご覧ください。自治協議会からは、私と、同じく第1部会の鈴木委員と二人で出席してまいりました。

まず、議題ですけれども、生活交通改善プランというものが令和6年度で1回済みまして、7年度から新しくなるということで、地域課長から、どういう位置づけかということから始まりまして、今の状況と取組内容、そして、将来像について説明がありました。まず、位置づけを申し上げておきますと、皆さんのところに資料がないので私の口頭になりますが、新潟市の最上位計画、新潟市総合計画というものがあります。これは令和12年度までが決定しております。その中で、その下位に位置するのが新潟市都市交通戦略プランというものがありまして、その中に公共交通計画がありまして、さらにその下に各区の生活交通改善プランが位置づけられておりまして、各区における身近な生活交通について計画を話し合うということで、そういう位置づけになっていますと説明がありました。

それで、今までの令和6年度までの具体的な計画と成果について、令和7年度からの新しい生活交通改善プランについて説明がありました。あらかじめ、事務局からは、生活交通改善プランの内容についてと、もう一つの柱として、新潟市全般の公共交通についての検討を行うということで、私もあらかじめ資料を読み込んで会議に臨んだのですけれども、問われるのは、具体的に何をやるかということで、資料に具体的に、例えば、シニア半わりですとかこどもりゅーと50円ですとか、ユニバーサルデザインタクシーの導入ですとか、いろいろなメニューがありますが、私は今までの令和6年度までの計画及び成果と7年度からの計画を比較しまして、少し驚いたのが、新しいメニューが二つしかないのです。その一つが、この春に開設される上所駅の利便性向上に向けた取組みの検討と、もう一つが、去年、南北バス直通になりましたけれども、それをどのくらい直通させるかの実態把握を行うという二つだけで、あと、観光タクシーとかいろいろなものがあるのですが、ほぼほぼ内容は変わっていないので、私もこれでは困るということで、具体的なことを申し上げてまいりました。

資料がないので申し訳ないのですけれども、例えば、毎回、いろいろなところで議論になっていますけれども、きちんとしたサインを設置してくれということ。私は駅南か

ら来て、今日も駅で乗り換えてこの古町まで来ましたけれども、古町に行くバスが、どれが先に出るか分からないということで、新潟交通に何とかしてくれと言ったら、6番、7番、8番から乗ってくださいと。たしかに、そこには古町方面と書いてあるのですが、私も、私が今日行って、見たら、9番の浜浦町線のほうが6分も早く出るのは。それで、資料で伝えたのですが、例えば、金沢ですと、行き先別が、例えば、兼六園、ひがし茶屋街、にし茶屋街、近江町市場、香林坊、金沢21世紀美術館と縦に並んで、どのバスの何番線のものが最初に出るというのが一目で分かるようになっているのです。こういうものを入れてくれということを要望してきました。

さらに、乗り場がばらばらになっている。今日乗った浜浦町線も、万代シテイはラブラの前には止まりません。その遙か先の萬代橋のほうに止まるのです。だから、浜浦町線に乗りたい人がラブラの前で待っていても、絶対に来ません。そういうバス停が分散している、ターミナルくらい乗り場はしっかり整備してほしいということは伝えてきました。

さらに言うと、若木委員が代表を務めている公共交通を考える会で2月8日、ワークショップを開きましたけれども、そこで出た意見が、運賃が高すぎるよねという話でした。260円、多分、均一運賃では日本一高いと思うので、運賃を下げろとは言いませんけれども、ヘビーユーザーに対してはきちんとした回遊性を高めるような仕組み、例えば、1日乗車券ですとか24時間乗車券ですとかそういうものを設置してくださいということは要望してきました。例えば、大分ですと、エリア別に3種類あるのですが、一番広いエリアは1日乗り放題で1,600円、中くらいのエリアは1日乗り放題で500円。新潟で言うのにいがた2kmエリアくらいが乗り放題だと、1日200円くらいで乗り放題です。1乗車100円、1日乗車券200円と。3回目以降はどんなに乗ったって200円からそれ以上かかりませんといったプランがあるので、そういったものを作ってくださいということは申し上げてきました。

さらに、バスの運転手が足りない足りないと言っているのも、例えば、オンデマンド交通を入れるとか、ライドシェアというものがやっと新聞でも、中央区で週末の夕方以降の限られた時間に、第一交通と富士交通が始めるということがありましたけれども、そういうものも積極的に入れて、市民の足を確保してくださいということを申し上げておきました。

それから、資料に書いてあるMa a Sって何だと思う方が多いと思うのですが、例えば、モビリティ・アズ・ア・サービスの略で、サービスとしての移動という概念で、例えば、スマートフォンで今いるところと行き先を入れると、全部乗りたいバスのところに接続も出て、決済も終わってしまうといったイメージです。日本ではまだ、検索システムはいろいろなところで出ていますが、例えば、フランスですと、予定していたところが運休や遅延が出ると、代替ルートを自動的にプッシュ通知で教えてくれるような仕組みもあるのです。Ma a Sについても生活交通改善プランにあったのですが、新潟にふさわしいMa a Sを考えるという会議が年1回ですということで、少な

すぎる、遅すぎる、早くしてくれということは申し上げてきました。そこまでが、改善プランに対する意見として申し上げてきました。

あと、鈴木委員からは、新潟駅のトイレが少なすぎるという話がありまして、市からは、広場を今整備していますけれども、そこにも開設されるという回答がありました。

それで、ここまでが生活交通改善プランに対する要望として私のほうで申し上げてきました。もう一つは、中央区の公共交通に関する意見交換ということがあったので、やはり、軌道系の交通をにいがた2kmと南部地域に早く整備してくれという話を申し上げてきました。

これは2月20日の読売新聞ですけれども、鳥屋野潟南に新商業施設という記事が出ています。2028年4月にオープンということで、今年の8月に着工するのですが、1日辺り5万6,000人の集客を見込んでいるということで、週末はもっと多いでしょう。今でも週末は麻痺状態になるのにこれ以上車が増えると、私もあの辺に住んでいるので、どうにもならない。出かけられないし、出かけたら最後帰ってこられないということで、やはり軌道系の交通の整備をお願いしますということは申し上げてきました。

それと、乗り換え拠点を設けることで、きちんとしたものを整備して、そこに生活交通、区バスや住民バスを乗り入れたり、そこに駐車場を整備して車から乗り換えてもらって、軌道系交通で中央部にアクセスするようなことを考えてみてはどうかということで、お願いしてきました。

さらに、先ほど申し上げましたけれども、バスの運転手が足りないのであれば、JRを基幹軸として各駅からバスを接続させるようなことで、競争というよりは協働でネットワークを維持してくださいということを申し上げてきました。

ほかに、バスと観光施設、あと、食を組み合わせた企画商品を作ってみてはどうかということで、宇都宮の例を申し上げたのですけれども、新潟交通観光バスの担当者が持ち帰って考えたいと言っていました。

そういったことで、いろいろなことを申し上げてきましたけれども、新潟交通単独ではできないでしょうから、すでに新バスシステムのときに公設民営ということで市もしっかりかかわっている中で、そこに関してもしっかりとかかわってほしいということで申し上げてきました。例えば今、住民バスは最大で85パーセントを税金で補助していますが、それは決して税金の無駄遣いではなく、しっかりと交通整備に税金を投じることで、例えば、区バス、住民バスが充実すれば、病院の通院バスを削減できたり、スクールバスを統合して効率化したりということで、返って効果が出る場合もありますよということを具体的な資料で申し上げてきました。

それで、私が申し上げたかったのは、失われた30年といって、大企業が投資を渋って内部留保をため込んだせいで停滞したという意見がありますけれども、行政も必要な投資を行ってこなかったのではないかと。公共交通を民間丸投げというのはやはりよろしくないということで、しっかりとかわって、税金を出すことで市民生活が豊かになるような仕組みを考えてほしいということで申し上げてきました。例えば富山では、1億

円でおでかけ定期券を出したところ、高齢者の医療費が7億2,000万円削減されたそうです。プラス6億2,000万円です。こういった投資と回収という意識を持っていただきたいということで、大きな話になってしまいましたが申し上げてきました。会議の報告は以上です。ありがとうございました。

(議 長)

ありがとうございました。

今の報告に対して、質問、意見等ございますでしょうか。

(森本委員)

新潟水辺の会の森本です。

松川委員に質問ではなくて、新潟市に1個質問と、あと意見なのですけれども、一つ目は、3月20日にバス無料デーをやるのです。りゅーとリンクに登録している人は3月20日、1日無料で乗れるものをやります。前回も、去年でしたか、無料デーをやりましたよね。あれも新潟市主導でやっているのですけれども、その意図と、どういう目的であれをやったのかというのを新潟市に聞きたいのが一つです。ものすごくたくさん乗ったのですよね、あの日は。だから、それがどう波及していくのかとか、その結果、どういうことをしようとしているのかということを知りたいというのが1個です。

それと、今、南部開発の質問をされましたけれども、ああいう開発をするときは、必ず交通の計画が必要なのです。つまり、こういう開発をするためには、こういう交通量が増えるのでこういう車線を造ってこうしなさいという交通計画を作らないと開発できないはずなので、その辺は闇雲に開発できないはずなので、一応、理屈上はそういう計画を作ることになっているはずです。

(議 長)

では、続いて、若木委員。

(若木委員)

私は公共交通の会をやっているのですけれども、先日はワークショップもやらせてもらったのですが、今の話、松川委員もそのメンバーなのですけれども、先ほど5万6,000人くらいが来ると。これは先ほど古町が活性化しないとかいろいろなことを言っていましたけれども、私も町を活性化するには公共交通は必須だと思っている人間です。イオン南は、週末に2万人来るのです。その半分以上は市外の人なのです。それは店長に聞いたので分かるのですけれども、その人たちは、新潟市内に行きたいと思っているのです。だけれども、車を置くところもそうなのでもすけれども、異動にかかる時間が分からない。つまり、公共交通ができるといいよねと。

それで、電車であれば時間も分かるし、結局、その人たちをどうやってこちらの新潟

島に引き込むかという、これは上手くいけば、本当に宝の山になるので、ぜひ、軌道系の交通ができるといいと思います。私の希望も入ってしまって、長くなってすみません。よろしくお願いします。

(議 長)

ありがとうございます。

まず、森本委員の回答は、市ですよ。

(森本委員)

市です。あれは市がお金を出しているから。

(議 長)

その辺、今日、回答できる方はいらっしゃらないですよ。

(地域課長)

いないのですけれども、概要、一般的なこととしては、皆さんご承知のとりの部分かもしれませんけれども、やはりどうしても新潟市はマイカー依存度が高く、なかなか公共交通の利用が進んでいかない中で、1日バス無料デーを設けることによって、たくさんバスをお使いいただいて、そのよさを知っていただくためにやっているということで、このたびは、おっしゃっていただいたとおり3月20日に「アプリでバス無料デー」というタイトルで実施すると聞いております。詳細はまたホームページなどでご確認いただけると幸いです。よろしくお願いします。

(森本委員)

3月7日から受付です。よろしくお願いします。

(松川委員)

時間は、後になっても回収できないのです。あとでやっておけばよかったと言っても絶対に間に合いません。それで、すでに宇都宮とかで、地価は上がる、人口は増える、小学校も新設されたという結果が出ているのです。スピード感でやりましょう。

(森本委員)

すみません、私ばかりしゃべって申し訳ないですけれども、鳥屋野湯のあの道はとても広いですよ。あそこの真ん中、緑地帯にモノレールというかBRT、LRTを走ろうという計画があって、たしか青山のイオンくらいまで伸ばすとかという、いろいろ計画があるので。例えば、LRTはできなくても、バスを走らせることはできますよね。緑地帯をどう崩すか分かりませんが、そういう安いお金で何かできるような、鳥

屋野潟の道路になっていますので、今後期待したいと思います。

(議 長)

松川委員、ありがとうございました。

次に行きます。次は、各所管課からの説明で、令和7年度中央区特色ある区づくり予算について、高橋さん、お願いします。

――各所管課からの説明（報告）――

(2) 令和7年度中央区特色ある区づくり予算（区役所企画事業）について
(資料 報4)

(総務課長)

総務課の高橋です。よろしくお願いいたします。説明させていただきます。

来年度の中央区特色ある区づくり予算につきましては、先般、各部会よりご意見をいただいたところでございますけれども、私からは、このご意見に対する各担当課の対応について報告させていただきたいと思います。

お手元の資料報4をご覧ください、1枚めくっていただきたいと思います。1番として、建設課のだれでも2kmストリートという事業ですけれども、こちらの事業費につきましては500万円となります。皆様方、こちらは第1部会、第2部会から意見をいただいております、実施に当たり、視覚障がい者への配慮ですとか、公共施設の移動についてご意見をいただいたところでございます。このご意見に対しましては、車いす利用者の通行にも配慮し、福祉団体のご意見をお聞きしながら、ガイドラインに従って検討整備を進めてまいりたいと思っています。また、公共施設などの生活関連施設への位置などにも配慮して、整備箇所を検討していきたいと思います。

2番につきましては、窓口サービス課の鳥屋野潟環境啓発事業「とやの物語」についてです。こちらの事業費は517万円となっております。令和6年度に実施しました潟舟乗船体験は応募も多く盛況であったことから、実行委員会と連携しながら、引き続き実施に向けて取組みを進めてまいります。また、環境啓発にむけて、一斉清掃など、地域と連携した活動を実施してまいりたいと思います。

続きまして、次のページをご覧ください。3番、建設課の区民協働森づくり事業についてです。こちらの事業費は500万円となります。ご意見をいただいたとおり、引き続き、地域の皆さんとともに協力して進めてまいりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

次に、4番、地域課のみなとまち新潟、次世代に向けた古町芸妓魅力発信事業についてです。こちらの事業費は162万8,000円となります。ご意見に対しましては、具体的な成果指標としまして、ショート動画等の再生回数を設定していきたいと考えておりま

す。また、アウトプットにつきましては、連携して事業に取り組む学生からも、体験、学習を踏まえた魅力発信に取り組んでもらう予定としております。

続きまして、次のページ、5番、地域課の地域のお宝！再発見事業です。こちらの事業費は516万5,000円となります。より魅力のある企画となるよう、開催時間や内容等を、関係団体とともに検討して取り組んでまいります。看板等の設置につきましては、まずは既存のものを有効活用したうえで、必要に応じて関係機関と協議をしてまいります。

最後、6番の建設課の西海岸公園等利便性向上事業等についてです。こちらの事業費は969万7,000円となります。意見をいただいた事項を含めまして、安全に十分に配慮しながら事業を進めてまいりたいと思います。

来年度の区づくり予算全体につきましては、ただいま説明しました区役所企画事業の6事業、合計3,166万円と、区自治協議会提案事業134万円を合わせ、総額3,300万を提案させていただきました。説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

(議 長)

ありがとうございます。

特色ある区づくり予算なのですけれども、今まで、我々から意見を出しておりました。その意見に対する対応ということになります。今の説明、報告に対して、質問、意見等ございますでしょうか。

よろしいですか。では、我々の意見に対してこういう対応があつて、それでこの事業を進めていくということで、よろしいですね。ありがとうございました。

(総務課長)

ありがとうございました。

(3) 西堀ローサ及び西堀地下駐車場について

(議 長)

続きましては、佐久間商業振興課長から、西堀ローサ及び西堀地下駐車場について、これは新聞にも載っていたことなのですけれども、よろしくお願いいたします。

(商業振興課長)

本日は、貴重な時間をいただきましてありがとうございます。経済部商業振興課の佐久間です。中央区健康福祉課在籍中は、皆様方に変にお世話になりました。ありがとうございました。

説明させていただきます。資料報5をご覧ください。1枚めくっていただきまして、西堀ローサ及び西堀地下駐車場についての資料をご覧ください。報道にもありましたと

おり、本市は昨年2月議会において、西堀ローサを引き継ぐという方針を表明し、将来の利活用に向けたサウンディング型市場調査を行うとともに、並行して施設や設備全体の老朽度調査を行ってきました。開設から約50年の地下施設の設備は、地下1階のローサ部分、地下2階の駐車場部分共有となっていますが、老朽度調査の中で、多くの設備が老朽化しており、今後も安全・安心に利用を続けていくためには大規模な更新改修が必要な状況であるということが分かりました。

今、設備の一部については、故障し修理不可能なため、応急対応をしているものもあります。そのため、下の1番にありますように、西堀ローサにつきましては、全テナントの退店後の4月以降は通路として利用していきます。また、西堀地下駐車場、こちらは市営の駐車場ですが、こちらについては5月1日から当面の間、利用を休止いたします。休止の期間は、米印にありますように、西堀ローサを含めた地下施設全体の活用方法が決定し、それに合わせた改修、設備の更新が行われるまでの間の休止となります。5月以降は、自動車で中央区役所やふるまち庁舎へ来庁する方については、周辺の古町・本町提携駐車場、右下の赤いマークがありますけれども、こちらの利用をお願いしたいと思います。区役所や市役所の利用窓口で、利用した提携駐車場の駐車券または駐車証明書をご提示いただくと、各窓口で無料の駐車券をお渡しする予定です。古町エリアには、参考資料でもおつけしましたが、約70か所の提携駐車場があり、4,000台という台数も用意があります。ご覧のマークの駐車場をご利用いただきたいと思います。今後、市としましても、皆様に混乱が生じないように周知を図っていきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

参考資料としておつけしましたのが、A4横の西堀地下施設の概要、そしてA3横の古町・本町提携駐車場のマップです。後ほどご覧いただければと思います。

3月末で地下商店街としての西堀ローサの営業は終了いたしますが、本市としては、将来の古町地区において、この西堀地下施設がどのような役割を担うべきか、古町全体の将来を見据えながら、引き続き、さまざまな民間事業者の方と、より具体的な対話を続け、利活用を検討していきたいと考えております。

最後に、駐車場の休止に伴い、これまでご利用いただいた方々にはご迷惑をおかけすることになりますが、5月以降は、これまで同様、できる限り公共交通機関をご利用いただくとともに、お車の場合には、地上の古町・本町提携駐車場をご利用のうえ、併せて、古町・本町地域の商店街でのお買い物や飲食なども楽しんでいただければ、商業振興課としてもありがたいと思っております。本日は、お時間をいただきましてありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。

(議 長)

ありがとうございます。

それでは、今の佐久間課長の説明に対して、質問等。もうすでに上がっております。どうぞ。

(桐生委員)

地域教育コーディネーターの桐生です。意見なのですけれども、次の事業が決まるまでの間、どのくらい分からないのですけれども、テレビで、シャッター商店街に有名な人が来てシャッターに絵を描いてくれるというのをやっていました。そういう人を頑張って市で呼んでもらって、そこに絵を描いてもらって、次の事業が決まるまでの間、観光客が来られるようなことをやってみてはどうかと思いました。通路として使えますし、通路をただ通るだけではなくて、そこを見に来るという目的もプラスになりますし、雨が当たらないので、ウォーキングに使ったりもできると思うのですけれども、シャッター街だと少し寂しいなというのもあるので、どうかなと思って、一言言わせてもらいました。ありがとうございます。

(議長)

ローサ美術館計画です。よろしいでしょうか。

(商業振興課長)

ご意見、ありがとうございます。全国の商店街でもシャッターのところにアートという取り組みはいくつかございますので、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(北川委員)

公募委員の北川です。よろしくお願いします。

桐生委員の質問にも関係するのですけれども、古町・本町で商売している者にとっては、西堀ローサがどうなるのかというのはすごく不安で、いつまでああいうふうにしておくのかなと思っているのです。次の活用方法が決定するまでのスケジュール感というのはどのような感じなのでしょうか。

(商業振興課長)

ありがとうございます。昨年の8月から、サウンディング型市場調査というものを行っておりまして、民間の企業の方と対話を進めています。今後、地下施設の活用に当たっては、新潟市が主導というよりも、民間の大きな力をいただきながら一緒になって考えていきたいと思っております。それで、民間の方に入っていただき、そこで市の施設を借りて、その施設を活用しながらしっかりと経済、お金が生まれるような、人が来るような施設として使っていただくようなアイデア、具体的な企画、提案を今、募集しているところです。すでに今年度で17者ほどいろいろと対話を進めているところです。今後、さらに具体的な設備の状況などもお話ししながら対話を進めていきますが、そう簡単ではないと思っております。1年2年というような短いスパンで決まるかどうかと

というのは、ちょっと今のところは未知数ですが、なるべく早く皆様にお姿が示せるように、引き続き取り組んでまいります。

(議 長)

よろしいですか。

ほかに何か意見はございますか。

では、私から最後に一つ。駐車場が使えなくて、いろいろな駐車場のマップが出ているのですけれども、逆に車で来る人がより多くなり、地下駐車場は使えないけれども、これはこれでひょっとしたらプラスに働くのではないかなと、聞いていて思いました。佐久間課長、どうもありがとうございました。

5 委員からの議事提案に基づく討議

(1) 北川委員提案事項

(議 長)

それでは、5 番目、委員からの議事提案に基づく討議、北川委員、よろしくお願いいたします。

(北川委員)

皆さん、活発な意見をよろしくお願いいたします。

私は本町で仕事をしているのですけれども、皆さんもニュースでもお分かりのとおり、古町・本町のエリアというのは、なかなか明るいニュースが最近ないなというのを実感しております。新潟市でも、活性化ということで 20 年くらい前から取り組んでいらっしゃると思うのですけれども、なかなか成果が現れないというか、今、実感できないというのが少しあるかなと思います。

それで、先日、私は古町・本町を盛り上げようということで、活動していらっしゃるデザイナーにお話を聞きましたら、昔のような古町・本町に戻りたいとか、古町・本町が衰退したと言われるのはすごくいやだと。自分たちは、今の古町・本町が好きだから活動しているのだということだったのです。それで、どうして好きなのかなと思って質問したら、先ほどもちらっと話になりましたけれども、小さいお店がすごく密集していて、それを見て歩くのがすごく楽しいですとか、あと、新潟駅とか万代に比べて歩くスピードというのでしょうか、時間がすごくゆっくり流れていて、そこが魅力なのだというのです。

それで、私も年を重ねてきて、このままの古町・本町を若い世代に渡していいものなのかなと、少し不安に思ってきています。そういった古町・本町に来てくれている若い

人たちを後押しするようなまちづくりってどういうことが必要なのかなというのを、皆さん、意見をぜひ聞かせていただきたいなと思って、今回、提案いたしました。

それで、私から一つ要望なのですが、その話を聞いたときに、居心地がいい町だというのが非常に印象的で、では、どうすれば居心地がいいのかなというように考えて、今、私が居心地が悪いと思っているのはどういうことなのかなと思って考えたら、公衆トイレなのです。三越、丸大がなくなって、いろいろお客さんの流れがありますけれども、一番混んでいるのが、これは北川調べですけれども、ルフルのトイレなのです。ルフルの女性トイレは平日になると列ができています。それくらい混んでいて、どうしてその方々は、近くに人情横丁だったり他門川公園だったりむつみ公園だとか、公衆トイレがあるのにそこを使わないのかなと思っていたら、やはり、そういうトイレは暗い、寒い、怖いのです。私はこれを自分で頭文字を取ってK S Kと言っていますけれども、子どもが入ろうとしても怖くて、お母さん、怖いから一緒に来てと言うようなトイレが多いのです。

それで、私たちは大変な思いをしてコロナ禍を乗り越えているわけですから、公衆トイレで、例えば、瀬戸物のふた付きのものがぼんと置いてあるだけではなくて、当然、消毒液みたいなものも置いてほしいし、節水の観点から音姫などもつけてほしいし、東京のトイレみたいにデザイナーズトイレにしなくてもいいけれども、きれいにしておけば防犯の意味もあるし、町を回るときの滞在時間を長くするためにトイレというのは必要不可欠ですので、その辺のところをぜひ、明るい、温かみがあって安全、私は3Aと呼んでいますけれども、そういうようなトイレにしていいただきたいなと。令和に合わせた、時代に沿った公衆トイレというものをお願いしたいと思います。皆さんの意見も、ぜひ、お願いいたします。

(議 長)

ありがとうございます。まちづくりに、さらにはトイレにまで言及していただきました。

それで、意見なのですが、最初、私が勝手にかけます。まず一人目、よろしいですか。第1部会から土田委員、よろしくお願いします。

(土田委員)

第1部会で古町・本町についての話し合いをしていたときに、私の友人なのですが、大学生であったり専門学校生にアンケートを取っていたので、その結果を少しお話しできたらと思っています。

古町に行ったことがない人はいなかったのですが、ほとんど行ったことがない人とか、年に1回、半年に1回という人がほとんどで、週に何回も行くという人は全体の5分の1にも行かないくらいでした。行かない理由が、遠いからというのも多かったのですが、新潟駅であったり万代とか、近場で用事が済むからとか、どんなお店

があるか知らないというのが主な意見としてありました。その人たちが古町・本町にどんなイメージを持っているかということで、大人の雰囲気があったりとか、個人経営で个性的なお店がたくさんだから、普段行かない自分たちからしたら行きづらいというようなことが多くありました。

実際に、よく行く人のイメージとしたら、意外と若者向けのお店もあったりとか、最近、若者で興味を持っている人が多いような古着が多いというイメージがあるので、少し行きづらいというのもありはするのですけれども、実際によく行ってみる人とか、知識というか情報がある人からしたら、古町はそんなに行きづらいところじゃないというのを知っている若者も増えてきてはいると思っています。しかし、やはり、遠いというか、行くとしても、無料の駐車場がないとバスで行かなければいけないとなると、バスの料金が少し高いから、だったら近場で済ませられるような駅、万代でとなると、古町に行く若者がどんどん減ってしまうのではないかなというように考えています。

個人的に、両親に話を聞いたのですけれども、この前、久しぶりに両親が古町に遊びに行ったということがあって、そこでどういうイメージだったというように聞いてみたのですけれども、昔ながらのまちなみがあって、それはすごく落ちついて、先ほどもおっしゃっていたように、ゆったりとした環境というか、昔ながらのものがあるから時間の経ち方がゆっくりで、落ちついたところが見れて面白かったというように言っていたのですけれども、やはり、駐車場がないと行きづらいということでした。

アンケートの中で、若者はどのような施設がほしいかという項目で一番多かったのは、駐車場とかショッピングモール、アウトレット、映画館、美術館がありました。やはり、駐車場はほしいというのと、古町にしかない魅力ももちろんあると思うのですけれども、それだけではなくて、ショッピングモールとかに来たついでに古町ならではのまちなみも見れたら嬉しいという意見が多くあったかなというようなイメージがあります。

(議 長)

ありがとうございます。アンケート調査から、さらにその分析まで報告していただきました。ありがとうございました。

続きまして、第2部会の豊島委員、よろしくお願いします。

(豊島委員)

入舟地区の豊島と申します。よろしくお願いします。北川委員のこの意見、トイレ、3A、私も本当にそう思います。

私は、しも町から古町へ来るのには、主人と二人でいつも歩いて15分くらいかけてずっと遊びに来ていましたが、やはり、商業施設がなくなったということで、足が遠のいてきています。だったらバスに乗って、それこそ万代とか駅前に行ってしまうのですが、今、古町なども本当に若者たちのお店がたくさん出ているので、その辺も最近はち

らほら見ながら散歩もしていますが、1日も早く商業施設に手をつけていただきたいというのが一番の願いです。

(議 長)

ありがとうございます。

時間も押していますので、どんどん行きます。次は、第3部会から、白山校区コミ協の小林さん、よろしくお願いします。

(小林(栄)委員)

白山校区コミ協の小林です。白山校区コミ協ですから、古町・本町そのもので生活している者です。この年ですから、時代とともに町は変わっていると思うので、昔のものを今に戻そうとかという気持ちは、住んでいる私たちはきつとないような気がするけれども、ただやはり、もう少し住みやすい、便利な町にはなってほしいなというようには思っています。

一番は、やはり、食ですよね。食えることから始まるわけだから、ショッピングモールと先ほど、第1部会の方がおっしゃっていましたが、一番ほしいのは、そこに生きている私たちだと思っています。そして、せっかくいいものが、例えば、県政記念館にしてもいろいろないいものがあるのだけれども、それを生かしたまちづくりが全然なっていないなというように住んでいて思っていて、例えば、今、雪が降っているので、県政記念館はものすごく外枠のところに雪がかかって、本当にきれいなのです。あの県政記念館をもう少し生かして何かをしようとか、空いていたらもう一回、前のような図書館を作ったらいいのではないのかと。

古町の活性化をするには、まず、住みやすさを重視して、そこから今あるものをまずは利用する、そこから新しいものは、若い人と何か考えていってもいいのかなと。

トイレももちろんそうなのですが、白山公園のところの噴水の脇にトイレがありますよね。花のようなタイルが、新潟市のチューリップのようなものがあって、駅で待っている人にも見えるという感じがあるので、トイレを造るときにもそういう工夫があると、もっと町はいいのかなというように思っています。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして、第4部会の井上委員、よろしくお願いします。

(井上委員)

時間が押してしまってすみません。新潟地区コミュニティ協議会の井上です。

私が住んでいるところは、まさに東堀6で、今、話に出ているど真ん中にいるのですが、私が思うに、子育て世代がもっと気軽に寄れるような場所だったり公園だっ

たり、お店だったり、そういうものがもっとあるといいのではないかなと思いました。サンリオピューロランドではないですけども、何かそういうキャラクターが小さい子は好きだと思うので、そういうものだったりとか、あと、以前、松本に行ったときに、本当に背の高い建物ではなくて、低い建物でまちなみがきれいに揃っていて、そして、一つ一つのお店に個性があって、私はこういう町のほうが新潟は合うのではないのかなというような印象で帰ってきました。古町芸妓だったり新潟の老舗、北前船といったときに、それに沿ったようなお店があったらいいのかなと思っているところです。たくさんいろいろな意見を聞かせていただいて、参考になりました。

あともう一つは、今、古町が、それこそ私を含めて買い物難民なのですけども、バスに乗って駅に行って、そこでとりあえずほしいものをみんな買ってくると、またバスで、浜浦町線に乗って帰ってきますなんていう方もいらっしゃるんですけども、やはり、新潟のお天気を考えると、車の移動のほうがいいよね、お年寄りはなかなか、乗り換えて、大変だよねっていうお話は聞こえてきています。子育て世代もそうなので、ベビーカーを押して乗り換えてちょっとね、というような意見も聞いているところです。

(議 長)

ありがとうございました。

今日は、討議というよりは、皆さんから意見を出していただくという形で進めたいと思います。

それでは、これから自由に挙手をしていただいて、発言を募ろうと思います。意見がある方は挙手をお願いします。

(野澤委員)

紫竹山校区コミ協の野澤です。

私は昼はそんなに古町には来ないのでですけども、夜はよく行くのです。

なぜ古町がいいかというと、実は、私は第1部会にいて、若い人が古町に来てもらうように頑張っていたのですが、実は逆で、古町は、年を取ってきたらすごく飲んでいて居心地のいい町なのです。やはり、若い人と、私は40なので、パワーが違うので、若い人は今、駅前でものすごく頑張っているんですけど、少し年を取って、落ちついて飲みたいとなると、やはり、古町はすごく居心地のいい町なので、若い人を呼ぶのも大事ですけども、そういう人が、みんな年を取っていくので、そういう人にとってのオアシスのようなところも追求して、離れないような町を目指すという一面も必要ではないかなと思います。

あとは、やはり、市、行政と新潟交通でがんばっていただいて、何とか行きやすいように手立てを考えていただけたらありがたいです。そうしたらもっと古町にさらにいくと思います。

(議 長)

ありがとうございます。

続きまして、そちらに手が上がっております。どうぞ。

(若木委員)

公募委員の若木と申します。

先ほど公共交通の話をしていただけなのですが、私は、実を言うと本町6番町の屋根があるところ、今、イトーヨーカドーがありますけれども、あそこの不動産を改装して、今、パチンコ玉三郎があるのかな、閉まっているのですけれども、ちょうどイトーヨーカドーの正面玄関の向かい。あそこを何とか飲み屋街にしたいなということで地主さんと取り組んでいるのです。

何であそこがいいかというお話しをさせてもらおうと、今、多分皆さん、新潟では分からないかもしれないですけれども、横丁ビジネスって日本中花盛りなのです。そういうものを作っている会社もあります。昭和とかレトロとか、先ほど古着の話をしていましたけれども、昭和にすごく興味があるのも若者なのです。若者にとってみたら昭和は新しいのです。そういうことで、この新潟島に敷居の低い、テーブルと椅子を出して、昼間から飲んでいる場所。あそこ、6番地、それがいいのではないかなと思って、あの辺の魚屋さんに聞いたら大賛成と言ってくれました。

つまり、何が言いたいかというと、新潟島に楽しさだとかそういうものがないのです。今、いろいろな話が出ていますけれども、人間共通する部分があると思うのですけれども、そこをとらえて、集中的に核を作る。これは本町でも古町でもいいですけれども、前からずっとその主張はしているのです。新潟に来たらあそこへ行こうねという、必ずそういう合い言葉みたいになるような核を作る。それは、先ほど食という話が出ていましたけれども、では、オール食が古町にあるかという話です。できれば、三越もそうだけれども、マンションを造るのではなくて、そういった場所を造る。それで、先ほど、個性のある店がいっぱいあると。個性のある店を一ヶ所に全部集める。そういった形の核を作るようなことと、それから、核を作って公共交通を造るということをやらないと、根本的な解決にはならない。

できれば、マクロをきちんとやってくれるのは行政、ミクロは民間がやるというような形で、ぜひ、環境をつくってもらおうと、古町は、私はいいポテンシャルを持っていると思うので、ぜひ。

(議 長)

ありがとうございます。

時間もものすごく押してきました。まだ手を上げている人いますか。二人。では、もう時間がないので、このお二人を最後に、お願いします。

(鈴木委員)

時間が迫っているところすみません。やはり、今まではどちらかというと、人が来てくれることをどうしたらいいかというような考えを中心で物事を考えてきていたと思うのですが、しかし、それでは長く続かないので、相手側がいきたいと思ってくれる場所を作るといったところを重点として考えたまちづくりをしていかないと、長く人を呼び込むには続いていかないと思うのです。

それで、若い人たちの世代と言いますけれども、今の若い人たちは、すごく旦那さんが奥さんに気を使って、奥さんと子どもを連れて一緒にどこか行って一緒にご飯を食べているという傾向がすごく見えますよね。私よりももうちょっと前の世代は、おれが稼いだお金はおれが使って何が悪いという時代で、そういう感じで物事を考えてきていたことの流れがあったかもしれないけれども、今の若い人たちは、夫婦、家族で何かをしよう、どこかに行って美味しいものを食べたい、どこかに行きたいというように考えている人たちが今、多いのではないかなと思うので、そういったところも加味しながらまちづくりをしていかないと、何か空回りだけしていつてしまうような気もするので、やはり、老若男女が楽しめるようなまちづくりを考えていただければ一番ありがたいかなと思います。

(議 長)

では、ラスト。

(森本委員)

すみません。ほかの方がしゃべったものを何か、まとめた感じになると思うのですが、人が来ればいいという話ではないので、そこで、どういうストーリーを持たせるか。古町は上と下でぜんぜん性格が違うのです。ですから、昨日、夜の12時にラーメン食べたいなと思って自動車を走らせたなら、上のほうは全部店が閉まっていますけれども、下のほうはラーメン屋さんがけっこうたくさん開いているのです。先ほどのストーリーの話と関連するのですが、古町自体がどういうストーリーを持つというのは上と下で変わるので、それぞれ地域の方が考えていく。生活感がないと人は来ないですから、外国の人に来てほしいということであれば、必ずその生活が充実していないと人は集まらないので、そういう生活感のある町を作ってほしいなと思います。

(議 長)

これで終了なのでありますが、最後、北川委員、皆さんから意見が出たので、1分で締めてください。

(北川委員)

	皆さん、ご意見ありがとうございます。私たちが言っても、市役所のどこかに響いて改善されなければ、どうにもならないことなので、ぜひ、市役所、中央区役所の方に参考にしていただいて、どんどんいい町にしていきたいなと思います。ありがとうございました。 (議 長) ありがとうございました。 最後です。最後は、高橋委員、お願いします。 6 その他 (1) 委員からのお知らせ (高橋委員) お疲れのところ、すみません。中央区社会福祉協議会の高橋です。 3月1日土曜日1時半から、例年行っております地域福祉推進フォーラムを開催いたします。中央区健康福祉課との共催でございます。チラシを入れさせていただきましたので、申込期限切れておりますが、来週26日くらいまででしたら受付できますし、当日、ふらっと来ていただいて座席には充分余裕ございますので、お時間のある方は、ぜひ、よろしくお願いいたします。 7 閉会 (議 長) それでは、本日の議事は全て終了しました。これで全体会は閉会します。ありがとうございました。
県議・市議	3名
傍 聴 者	2名
報道機関	0社